

令和 8 年度 国語科 シラバス

科目	探求現代文	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	「論理国語」（数研出版）「探求文学国語」（桐原書店）				
補助教材等	論理国語準拠ワーク（数研出版）探求文学国語準拠予習復習ノート（桐原書店） 現代文単語評論・小説（桐原書店） マーク試験のための基本練習現代文 10（尚文出版）				

1 学習の到達目標

評論・小説それぞれのジャンルに即した読解力を養い、内容を的確に把握する力を身に付けるとともに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深化させる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

様々な文章に触れながら読解力の向上を目指し、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を広げ深めましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文章中の語彙や表現技法を正しく理解しているか。	様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	提出物や授業への取り組み方

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	「現代文を読み、構成を捉えながら内容を読み取る①」	・「いき」の美学 ・「である」と「すること」 ・ランドセル	33	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げている。(b)
7 8 9	「現代文を読み、構成を捉えながら内容を読み取る②」	・「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 ・復讐 ・檸檬	24	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げている。(b)
10 11 12	「現代文を読み、構成を把握し内容を的確にとらえる」	・環境と心の問題 ・畜犬談 ・変身	30	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 国語を主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。(c)

<p>1 2</p>	<p>「現代文を 読み、構成 を把握し内 容を解釈す る」</p>	<p>・顔の所有 ・舞姫</p>	<p>18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評論を読み、その構成・展開・要 旨などを、文章に即して的確に読 み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の 描写を的確に捉える。 	<p>文章中の語彙や表現技法を正しく 理解している。(a) 様々な文章をその構成・展開・要旨 などに注意しながら読み、自分の 考え方を広げている。(b)</p>
----------------	---	----------------------	---	--

令和 8 年度 国語科 シラバス

科目	実用国語	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年選択講座
使用教科書					
補助教材等	第一学習者「小論文実力養成講座 ステップアップ小論文」				

1 学習の到達目標

文章の書き方に関する基礎知識を定着させ、基礎から応用を学ぶことで自分の考えや思いを相手に伝える文章表現力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

文章の書き方、表現の仕方を学び、志願理由や事故 PR、小論文が書けるよう、たくさんの練習問題に取り組みます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	語彙や表現技法の知識を身につけているか。	様々な表現技法を丁寧に読み、自分の文章で表現することができているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	提出物や授業への取り組み方

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Step1「小論文を書き始める前に」	上記参照	33	「小論文とは何か」から、課題文の論旨の読み取りやデータ・図表の読み取り、課題の捉え方等を学び、小論文課題に取り組む。	上記参照
7 8 9	Step2「読み、考え、書く力をつけよう」	上記参照	24	課題で求められているものを理解し、具体的な根拠の提示や自身の考えの表し方などを学び、小論文課題に取り組む。	上記参照
10 11	Step3「入試小論文に挑戦しよう」	上記参照	21	テーマ型、課題文型などの様々な入試問題に実際に挑戦し、それぞれの課題に対応した小論文を書けるようにする。	上記参照

令和 8 年度 国語 科 シラバス

科目	発展国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年選択講座
使用教科書					
補助教材等	「現代文長文記述問題集 読解力習得編」(いいずな書店)				

1 学習の到達目標

<p>「現代文」 評論・随想・小説各ジャンルの文章を読み問題演習を行うことで、語彙・論理展開等を身につけるとともに、「教材を情報として受け取り、解釈して的確な方法で表現する力」を磨く。</p> <p>「古典」 古文・漢文の問題演習を通して、古文単語、古典文法、句形等の既習事項の確認と定着を行う。文章から文化を学ぶことにより豊かな感性を育てる。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○色々なジャンルの文章を読む学習の中で確かな知識・技術を身につけて「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の力を更に伸ばしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	語彙や文法の知識を身につけているか。	本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査結果 学習プリント記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査結果 学習プリント記述内容 発言時の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の取り組み 授業中の行動観察 ペア、グループワーク時の行動観察 ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ①」	現代文既出問題集 プ1~8 学習プリント	33	<ul style="list-style-type: none"> 現代文読解に必要な語句を学ぶ。 評論の論理展開について理解を深める。 記述問題を解くためのポイントを抑える。 	語彙や文法の知識を身につけている。(a) 本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)
7 8	「古典文の語彙・構成を学ぶ①」	学習プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> 古文読解に必要な語句を学ぶ。 古典文法の「用言」「助動詞」「助詞」「敬語表現」について学ぶ。 古文作品を読み構成を捉え内容 	語彙や文法の知識を身につけている。(a) 本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれ

				を解釈する。	ていることについて具体的に考察できている。(b)
9	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ②」	現代文記述問題集 9～12	12	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文読解に必要な語句を学ぶ。 ・記述問題を解くためのポイントを有しながらより難易度の高い問題に取り組む。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>学習課題に主体的に取り組み、国語を探究しようとする態度を養おうとしている。(c)</p>
10	「古典文の語彙・構成を学ぶ②」	学習プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文読解に必要な語句を学ぶ。 ・漢文読解に必要な句法について学ぶ。 ・漢文作品を読み構成を捉え内容を解釈する。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)</p>
11	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ③」	現代文記述問題集 13～16	9	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文読解に必要な語句を学ぶ。 ・小説読解の基本である「心情理解」を行う。評論文の記述問題に対応する力を身につける。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)</p>
12 1 2	「現代文・古典文において構造や文法事項を理解したうえで内容を解釈し自分の考えを広げる」	現代文記述問題 17～19 学習プリント	27	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文、古典文の読解に必要な語句を学ぶ。 ・評論・随想・小説・古文・漢文の作品を読み、的確な読解と解釈を試みる。 ・作品の感想を交流し自分のものの見方、考え方を広げる。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>学習課題に主体的に取り組み、国語を探究しようとする態度を養おうとしている。(c)</p>

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	近代日本史	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集「新詳日本史」(浜島書店)、史料集「新編史料日本史」(とうほう)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。適宜、発展的問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、授業中でのグループワークを通じて学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	三回の考査の知識問題	三回の考査の思考問題	グループワークや小テスト。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第3章 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 第4章 1 開国から明治維新	上記参照	21	◎産業や交通網の発展に伴う都市の繁栄と庶民生活の変化、飢饉や一揆の発生と幕政の改革、諸外国の接近と幕藩体制の動揺、学問・思想の展開と近代の萌芽などに関して、総合的に理解する。 開国と幕末の動乱について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化とかわらせて考察する。また幕末の動乱における天	(a)江戸時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。

				皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃蕩に至るまでの経過を理解する。	
6	2立憲政治の形成と国民文化		12	◎明治維新以後の近代化について、諸国との関係に注目しつつ、近代国家と立憲主義及び資本主義発達の特質と社会問題を理解する。	(a)明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 (b)社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 (c)日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
7 8	3日本の近代化と東アジア		12	◎日清・日露の両戦争に至った歴史的背景を踏まえ、日本がアジアとった行動を帝国主義の国際情勢の中で理解する。	(a)この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 (b)戦争と国民の関わりについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 (c)対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
9	4デモクラシーと第一次世界大戦		12	◎政党政治と大正デモクラシーの特質を把握し、第一次世界大戦及び戦後の国際関係に関連させて理解する。	(a)この時期の国内の様相や背景、変化を理解している。 (b)この時期の事件と国民の関わりについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 (c)引き続き日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
10	5激動する世界と日本		12	◎大戦後の経済的危機から日中全面戦争に至る過程を、政党政治の崩壊と中国の動向と関連させて理解する。	(a)軍部の台頭と対外政策について理解している。 (b)当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 (c)軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
11	第5章現代の世界と日本		9	◎戦後の民主化と復興を、冷戦下の世界の動向と関連づけて考察する。 ◎55年体制の特質と高度経済成長による国民生活の変容や平和国家、経済大国としての世界的な役割を理解する。	(a)戦後の日本の民主化の過程を理解している (b)民主化の過程における諸事象を相互に関連付けて多面的・多角的に考察し表現できる。 (c)現代日本の諸課題を主体的に研究しようとしている。

12 1	特編授業		18	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて主に私立大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>
---------	------	--	----	---	---

令和 8 年度 地理歴史科 シラバス

科目	近代世界史	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	詳説世界史探究 (山川出版社)				
補助教材等	詳説世界史探究整理ノート (山川出版社) アカデミア世界史 (浜島書店) 新世界史研究ノート問題集				

1 学習の到達目標

<p>① 世界の歴史の諸事象について、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の意味や意義を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力をつける。</p> <p>③ 大学入試に向けて資料、図版の読み解き、思考力をつける。</p>

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>① 世界の歴史の大きな枠組みを理解する。</p> <p>② 諸資料に基づき、地理的条件や同時代各地域の歴史と関連付けながら理解する。</p> <p>③ 歴史的思考力を培うために、因果関係を理解する。</p> <p>④ 教科書、準拠ノートを中心に、予復習をする。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	近世ヨーロッパ世界の動向	教科書 資料集 整理ノート	30	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	産業革命と環大西洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	教科書 資料集 整理ノート	30	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立 5 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 6 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 7 アメリカ合衆国の発展 8 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と世界の変容	教科書 資料集 整理ノート	30	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 4 第一次世界大戦とロシア革命 5 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 6 アジア・アフリカ地域の民族運動	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート	15	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	地誌	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	二宮書店『地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料2024』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 現代世界の地理的事象を地誌学的に学び、地域の特色や課題を認識する。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身につけていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・授業に対する取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	現代世界の 系統地理的 考察		22	<ul style="list-style-type: none"> ・工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済活動を地理的、グローバル的視点で理解できた…(a) ・現代の世界的な結びつきと、その影響による社会の変化についてまとめられている…(b) ・世界的な結びつきによって変化している様子を自らの生活と関連付けて考察している…(c)
7 8			20	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市と居住問題 ・生活文化 ・民族と宗教 ・民族・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の国々が抱える人口問題・都市問題の内容を理解できた…(a) ・現代世界の国々が抱える問題について地誌的視点からまとめている…(b) ・現代世界の問題と解決策について考察することができた…(c)
9 10	現代世界の 地誌的考察		23	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジア、中央アジア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)
11 12			20	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)
1 2			20	<ul style="list-style-type: none"> ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)

令和 8 年度 地理歴史科 シラバス

科目	発展世界史	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	詳説世界史探究（山川出版社）				
補助教材等	詳説世界史探究整理ノート（山川出版社） アカデミア世界史（浜島書店） 新世界史研究ノート（啓隆社） 世界史標準問題精講（旺文社）				

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の諸事象について、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の意味や意義を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力をつける。
- ③ 大学入試に向けて資料、図版の読み解き、思考力をつける。
- ④ 私立大学の問題にも対応できるように、実践的に問題を解く

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ①歴史的思考力を培うために、因果関係を理解する。
- ②教科書、準拠ノートを中心に、予復習をする。
- ③問題集を繰り返し、範囲を決めて復習する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解していると同時に、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 アジア・アフリカ地域の民族運動 2 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 第二次世界大戦 2 新しい国際秩序の形成	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	冷戦と第三世界の台頭	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	冷戦の終結と今日の世界	教科書 資料集 整理ノート 問題集	15	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科目	探求日本史	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集 「日本史図表」(第一学習社)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。共通テストに向け、問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、グループワークを通じて主体的に学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	グループワークや小テスト。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章～第3章 旧石器時代から奈良時代	上記参照	14	◎原始・古代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を理解している。 (b) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を多面的・多角的に考察している。 (c) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を主体的

					に追究している。
6	第4章～第7章 平安時代から室町時代		8	◎中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
7 8	第8章～第10章 江戸時代		8	◎近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
9	第11章～第12章 明治時代		8	◎近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
10	第13章～第15章		8	◎大正、昭和前期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
11	第16章～第18章		6	◎戦後の日本の民主化の過程における文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的

					背景や国際関係を主体的に追究している
12 1	特編授業		12	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科目	発展日本史	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集「新詳日本史」(浜島書店)、史料集「新編史料日本史」(とうほう)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。適宜、発展的問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、グループワークを通じて主体的に学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	小テスト、グループワーク。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章～第3章 旧石器時代から奈良時代	上記参照	21	◎原始・古代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を理解している。 (b) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を多面的・多角的に考察している。 (c) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を主体的

					に追究している。
6	第4章～第7章 平安時代から室町時代		12	◎中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
7 8	第8章～第10章 江戸時代		12	◎近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
9	第11章～第12章 明治時代		12	◎近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
10	第13章～第15章		12	◎大正、昭和前期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
11	第16章～第18章		9	◎戦後の日本の民主化の過程における文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的

					背景や国際関係を主体的に追究している
12 1	特編授業		18	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	探求地理	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	帝国書院『新詳 地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料 2025』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 様々な地理的事象に関して、その要因や影響について理解し、表現できる。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけの様な受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身についていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・ペアワーク、グループワークへの取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章 自然環境		21	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・地球環境問題 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)地形の形成要因や気候区分の分類について、相互にかかわる様々な事象を用いて説明ができる。</p> <p>(c)地球環境問題が与える影響、解決への取り組みについて主体的に追究している。</p>
6	第2章 資源と産業		12	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食糧問題 ・エネルギー・鉱産資源 ・工業 ・第三次産業 	<p>(a)農業分布や資源分布、産業の発達の過程について理解している。</p> <p>(b)産業の発達がどのようにみられるのか、地域の特徴や歴史的視点も踏まえ説明することができる。</p> <p>(c)産業の発達による人々の生活の変化について、自らの生活と結び付けながら主体的に追究している。</p>
7 8	第3章 交通・通信 と観光、貿易		12	<ul style="list-style-type: none"> ・交通, 通信 ・観光 ・貿易 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)国際社会の変化や技術の発達により、世界がどのように結びついているかを説明できる。</p> <p>(c)世界の結びつきの変化をとらえ、自らの生活に与える影響や今後の変化について主体的に追究している。</p>
9 10	第4章 人口、村落・都市		24	<ul style="list-style-type: none"> ・人口, 人口問題 ・村落, 都市 ・都市, 居住問題 	<p>(a)世界の人口形態や、都市の形成について理解している。</p> <p>(b)世界各地でみられる人口問題や都市問題について、共通性をもとに、発生要因を説明ができる。</p> <p>(c)人口問題や都市問題を解決するための取り組みについて主体的に追究している。</p>
11 12 1	第5章 生活文化、 民族・宗教		18	<ul style="list-style-type: none"> ・民族, 宗教 ・民族問題 ・領土問題 	<p>(a)世界の民族・宗教やその分布を理解している。</p> <p>(b)民族問題や領土問題の発生要因、世界全体に与える影響について考え、説明することができる。</p> <p>(c)世界平和や多文化の共生のために必要な取り組み等について主体的に追究している。</p>

令和 8 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	発展地理	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	帝国書院『新詳 地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料2025』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 様々な地理的事象に関して、その要因や影響について理解し、表現できる。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身についていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの 評価の観点 の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・ペアワーク、グループワークへの取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章 自然環境		21	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・地球環境問題 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)地形の形成要因や気候区分の分類について、相互にかかわる様々な事象を用いて説明ができる。</p> <p>(c)地球環境問題が与える影響、解決への取り組みについて主体的に追究している。</p>
6	第2章 資源と産業		12	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食糧問題 ・エネルギー・鉱産資源 ・工業 ・第三次産業 	<p>(a)農業分布や資源分布、産業の発達の過程について理解している。</p> <p>(b)産業の発達がどのようにみられるのか、地域の特徴や歴史的視点も踏まえ説明することができる。</p> <p>(c)産業の発達による人々の生活の変化について、自らの生活と結び付けながら主体的に追究している。</p>
7 8	第3章 交通・通信 と観光、貿易		16	<ul style="list-style-type: none"> ・交通, 通信 ・観光 ・貿易 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)国際社会の変化や技術の発達により、世界がどのように結びついているかを説明できる。</p> <p>(c)世界の結びつきの変化をとらえ、自らの生活に与える影響や今後の変化について主体的に追究している。</p>
9 10	第4章 人口、村落・都市		24	<ul style="list-style-type: none"> ・人口, 人口問題 ・村落, 都市 ・都市, 居住問題 	<p>(a)世界の人口形態や、都市の形成について理解している。</p> <p>(b)世界各地でみられる人口問題や都市問題について、共通性をもとに、発生要因を説明ができる。</p> <p>(c)人口問題や都市問題を解決するための取り組みについて主体的に追究している。</p>
11 12 1	第5章 生活文化、 民族・宗教		27	<ul style="list-style-type: none"> ・民族, 宗教 ・民族問題 ・領土問題 	<p>(a)世界の民族・宗教やその分布を理解している。</p> <p>(b)民族問題や領土問題の発生要因、世界全体に与える影響について考え、説明することができる。</p> <p>(c)世界平和や多文化の共生のために必要な取り組み等について主体的に追究している。</p>

令和 8 年度 公民科 シラバス

科 目	発展公共	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	「公共」（東京書籍）				
補助教材等	「最新公共資料集 2025」（第一学習社）「4 ステージ演習ノート公共」（数研出版）				

1 学習の到達目標

<p>① 2 学年で必修 2 単位で学習した公共を基礎に、現代の諸課題を更に深く考察し、選択、判断するための手がかりとなる概念とともに、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを他者に伝達する力も養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること及び昨今の国際紛争にも鑑み、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○新聞などにも目を通し、現代社会で起きている諸問題に興味を持つように心がけよう。</p> <p>○教科書、資料集を読み込み、予復習に力を入れよう。</p> <p>○問題集を繰り返し解き、実際に問題を解く力を身に着けよう。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え、考察し、判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択、判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を多角的に考察し正しく判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き、主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学力を向上しようとしている。

主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
--------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第1部「公共」のとびら 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	33	・青年期と自己形成の課題 ・自己形成と社会への参画 ・個人として尊重される人間 ・公共的空間における協働とは	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	第1章 民主政治と私たち 第2章 法の働きと私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	19	・民主主義の成立過程 ・立憲主義とは何か、憲法と法律 ・国会、内閣、裁判所、地方自治 ・政治参加と選挙制度	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	教科書 資料集 演習ノート 問題集	17	・市場経済の仕組み ・国民所得と経済成長 ・財政・金融のしくみとはたらき ・労働者の権利と雇用、労働問題	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	15	・国際社会の成り立ち ・国際連合の役割 ・国際社会と平和主義 ・冷戦後の世界と日本	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 8 年度 数学科 シラバス

科目	発展数学	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年・文系
使用教科書	トライ EX NEO 数学演習 I A+II BC (数研出版)				
補助教材等	新課程チャート式大学入学共通テスト対策 数学 I A+II BC (数研出版)				

1 学習の到達目標

数学 I・A および 数学 II・B・C の内容を理解し、諸課題についてその学習内容を活かしながら、思考できる態度と応用力を身に着ける。また、科目間のつながりを理解し、同じ問題を複数の方法で解いたり、解答を検証する力をつける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○問題に正解したかどうかだけでなく、定義や公式の忘れていないものはないか、問題解決の手がかりとなりそうな着眼点はないかなど、その後に活かせる考え方を身につけられるよう、意識して学習すること。

○授業時間外でも、扱った問題の復習や、緑チャートでの学習にも時間を割り計画的に取り組むこと。

○分からないことは、絶対にそのままにせず、教科担当者や友達に質問し、解決する努力をすること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	思考力・判断力が必要な問題に対して、数学を活用して事象を考察したり、他の事象との関連を考察し表現したりすることができる。	数学の良さを認識し、積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。 また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。
主な評価方法	・定期考査 ・確認テスト	・定期考査	定期考査・確認テスト・提出物をはじめ、全ての活動内容を総合的に判断して評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	Ⅱ	トライ EX	21	第12章 微分・積分 第11章 指数・対数関数 第10章 三角関数	<p>各単元における問題演習における取り組みから、以下の観点で評価する。</p> <p>(a) 数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p>(b) 思考力・判断力が必要な問題に対して、数学を活用して事象を考察したり、他の事象との関連を考察し表現したりすることができる。</p> <p>(c) 数学の良さを認識し、積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。</p> <p>また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。</p>
6	Ⅱ		12	第9章 図形と方程式 第8章 式と証明・複素数と方程式	
7 8 9	B C I		24	第13章 数列 第14章 統計的な推測 第15章 ベクトル 第1章 数と式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数	
10 11	I A		21	第4章 図形と軽量 第5章 データの分析 第6章 場合の数と確率 第7章 図形の性質	
12 1 2	総合演習		27	実践問題演習 (I A+ II BC)	

令和 8 年度 数学科 シラバス

科目	発展数学	単位数	5	履修学年・クラス (講座)	3 学年・理系
使用教科書	トライ EX NEO 数学演習 I A+II BC (数研出版)				
補助教材等	新課程チャート式大学入学共通テスト対策 数学 I A+II BC (数研出版)				

1 学習の到達目標

数学 I・A および 数学 II・B・C の内容を理解し、諸課題についてその学習内容を活かしながら、思考できる態度と応用力を身に着ける。また、科目間のつながりを理解し、同じ問題を複数の方法で解いたり、解答を検証する力をつける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○問題に正解したかどうかだけでなく、定義や公式の忘れていないものはないか、問題解決の手がかりとなりそうな着眼点はないかなど、その後に活かせる考え方を身につけられるよう、意識して学習すること。

○授業時間外でも、扱った問題の復習や、緑チャートでの学習にも時間を割り計画的に取り組むこと。

○分からないことは、絶対にそのままにせず、教科担当者や友達に質問し、解決する努力をすること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	思考力・判断力が必要な問題に対して、数学を活用して事象を考察したり、他の事象との関連を考察し表現したりすることができる。	数学の良さを認識し、積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。 また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。
主な評価方法	・定期考査 ・確認テスト	・定期考査	定期考査・確認テスト・提出物をはじめ、全ての活動内容を総合的に判断して評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	Ⅱ	トライ EX	35	第12章 微分・積分 第11章 指数・対数関数 第10章 三角関数	各単元における問題演習における取り組みから、以下の観点で評価する。 (a) 数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 (b) 思考力・判断力が必要な問題に対して、数学を活用して事象を考察したり、他の事象との関連を考察し表現したりすることができる。 (c) 数学の良さを認識し、積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。 また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、改善したりしようとしている。
6	Ⅱ		20	第9章 図形と方程式 第8章 式と証明・複素数と方程式	
7 8 9	BC I		40	第13章 数列 第14章 統計的な推測 第15章 ベクトル 第1章 数と式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数	
10 11	IA		35	第4章 図形と軽量 第5章 データの分析 第6章 場合の数と確率 第7章 図形の性質	
12 1 2	総合 問題		45	実践問題演習 (IA+IBC)	

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	探求物理	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	物理 (東京書籍)				
補助教材等	エクセル物理 (実教出版)、レッツトライノート物理 (実教出版)				

1 学習の到達目標

<p>①1 年次で学習した物理基礎と 2 年次での物理を発展させ、現代社会の基盤となっている電磁気学を学び、さらに原子物理学まで学習し理解する。</p> <p>②様々な物理現象に興味を持ち、主体的にそこにある法則を探求しようとする態度と、科学的に物事を見る目を養う。</p>

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○物理はこの世の中にあるすべての物体と現象について、そこにある法則を解き明かしていく学問です。ですから、科学全般に常に興味を持ちましょう。そして、どうしてそうなるかを考えましょう。その時に大切なのは「想像力」です。正しいイメージが持てるようにしましょう。</p> <p>○物理を記述するのは「数学」です。数学が苦手な人はそれをまず克服しましょう。</p> <p>○授業でやったことは必ず復習して覚えましょう。特に、重要用語や重要公式を覚えてないと何もできません。</p> <p>○受験に向けての学習は「自ら学ぶ」ことが大切です。家庭学習・受験勉強は必ずしましょう。また、予習のように授業を先行して勉強していったり構いません。そのくらいでないと身に付きません。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	様々な物理現象とその法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な数学的理解と実験に関する基本的な技能を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける家庭において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、自ら学習を調製しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストや課題・レポートにおいて評価する。	・授業へ取り組む態度と課題への取り組みを評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	静電気力 電場 電位 コンデンサー	教科書 問題集 授業プリント	9	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気力に関するクーロンの法則を理解させる。 ・電荷の周囲にできる電場について理解させる。 ・コンデンサーについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)クーロンの法則を理解し関係式を正しく使える。電場がベクトル量であることを理解し、電場の向きや大きさを求めることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく適用できる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。

				<ul style="list-style-type: none"> ・(b)クーロン法則について説明できる。電気力線について説明できる。電場について説明できる。平行板コンデンサーについて説明できる。 ・(c)身近な現象から静電気について興味・関心を持ち、理解しようとしている。電場や電位について興味・関心を示している。コンデンサーの利用例などに興味・関心を持ち、コンデンサーの性質などを理解しようとしている。 	
5	電流 直流回路 磁場 電磁力 ローレンツ力	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則を理解させる。 ・複雑な直流回路に関して、キルヒフオフィの法則を理解させる。 ・電流が作る磁場について理解させる。 ・電流が磁場から受ける力を理解させる。 ・荷電粒子が磁場から受ける力を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)オームの法則を始めとする基本的な指揮を適切に使用できる。キルヒフオフィの法則を正しく適用できる。磁気力に関するクーロンの法則を理解している。電流がつくる磁場を理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。 ・(b)電圧降下とは何か説明できる。素子の内部抵抗について説明できる。磁石の性質について説明できる。電流が作る磁場について説明できる。フレミングの左手の法則が正しく適用できる。ローレンツ力を説明できる。 ・(c)電流の中れ方が物質やつながり方によってどのように異なるかということに興味を持っている。抵抗を流れる電流御向きと大きさに興味を示している。磁石の性質に興味を示し、身近な者との関連を考えることができる。導線に電流を流すと周囲に磁場ができることに興味を示し学ぼうとしている。
6	電磁誘導 交流 電磁波	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ファラデーの電磁誘導の法則について理解させる。 ・交流がどのように発生するか理解させる。 ・RLC 直列回路について理解させる。 ・共振回路について理解させる。 ・電磁波の発生と電磁波の種類について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)電磁誘導について理解し、関係式を正しく適用できる。交流発生メカニズムを理解している。交流電圧・交流電流について理解している。リアクタンス、インピーダンスについて理解している。共振回路や電気振動を理解している。電磁波について理解している。 ・(b)ファラデーの電磁誘導の法則やレンツの法則を説明できる。交流電圧・交流電流について説明できる。素子を流れる交流電流の位相差について説明できる。電磁波の発

					<p>生原理について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(c)電磁誘導に興味を示している。交流を理解しようとする意欲が見られる。交流回路について学ぼうとする意欲が見られる。生活の中で使用している電磁波に興味を持ち、電磁波について理解しようとしている。
7	電子 光電効果 X線	教科書 問題集 授業プリント	9	<ul style="list-style-type: none"> ・陰極線を理解し、トムソンの実験とミリカンの実験を理解させる。 ・光電効果について理解させる。 ・X線の発生と粒子の波動性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)陰極線について理解している。比電荷の測定について理解している。ミリカンの実験について理解している。光電効果について理解している。X線の性質と特徴を理解している。X線回折について理解している。物質波について理解している。 ・(b)比電荷と電気素量から電子の質量を算出する方法を説明できる。光電効果を説明できる。X線開設とコンプトン効果について説明できる。電子の波動性について説明できる。 ・(c)電子について興味を持ち、電子の性質について理解しようとしている。光の粒子性に興味・関心を示している。X線について関心を示し、理解しようとしている。粒子の波動性と粒子性について興味を持っている。
8	原子の構造 原子核	教科書 問題集 授業プリント	3	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造を科学史の視点から理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)電子のエネルギー準位について理解している。核子の個数を計算できる。放射性崩壊と半減期について理解している。 ・(b)電子のエネルギー準位について説明できる。同位体について説明できる。放射線の種類や原子核崩壊について説明できる。 ・(c)原子の構造とエネルギー準位に興味を示している。同位体について興味を示している。放射線について理解しようとしている。
9	核反応 素粒子	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の核分裂反応と核融合反応を理解させる。 ・素粒子を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)核反応式を書くことができる。素粒子の分類について理解している。 ・(b)核分裂と核融合を説明できる。クォークについて説明できる。 ・(c)核エネルギーについて興味を示している。物質の根源的な粒子について興味を示している。

10	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	12	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
11	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
12	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	探求生物	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	生物（数研出版）				
補助教材等	スクエア最新図説生物（第一学習社） リードα生物基礎＋生物（数研出版）				

1 学習の到達目標

1. 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
2. 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
3. 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重しつつ、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 内容量が多く、知識を深めながら構造・現象を理解する科目です。時間をかけ地道に復習を繰り返すことで成果を上げることができます。そういう意味では努力が報われる科目といえます
- 生物は遺伝子工学、バイオテクノロジーの分野を中心に急速な発展を見せています。これから新しい発見や発明が期待される学問です。単に受験科目の1つとしてみるのではなく、是非、生命現象に対する好奇心を原動力として学習に取り組んでみてください。
- ただプリントを埋めるだけでなく、自分の知識と結びつけたり、自分自身との関連性を見いだしたりしながら「なぜそうなのか。」「どうしてそうなるのか。」と常に主体的な姿勢を持ちたいものです。
- 授業で触れた図やグラフは実際に自分で色分けしながらノートに書いてみると、視覚的にも理解が深まります。
- 副教材の問題集も復習に活用してください。考えて解くことで、重要なことがよりしっかりとした記憶として残るはずです。
- 授業からちょっと離れて、自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物が捉えられますし、生物に関する知識や理解が幅広いものとなり、生物学的センスが磨かれます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象と生物を取り巻く環境についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題への取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。	・眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられ、視覚が生じることを理解している。a ・ヒトの視覚経路の構造について理解し、視神経を切断した場合の見え方と関連づけて説明することができる。b ・ニューロンに生じた興奮が次のニューロンへと伝えられるまでの過程を理解している。a ・神経筋標本による実験の資料に基づき、伝導や伝達に要する時間を計算することができる。b
5	3. 情報の統合 4. 刺激への反応	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。	・ヒトの神経系の構成について理解している。a ・反射が無意識のうちに起こる理由を、興奮の伝達経路と関連づけながら説明することができる。b ・筋肉が、神経系から伝達してきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解している。a
6	5. 動物の行動 第6章植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。	・動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解している。a ・ショウジョウバエの求愛行動が、雄と雌の互いの行動によって連鎖的に進行していくことを、雌雄の神経回路の違いと関連づけながら説明することができる。b ・植物は周囲の環境の変化を感知して、その環境に応答することを理解している。a ・環境からの情報伝達に植物ホルモンがはたらいていることを理解している。a

				<ul style="list-style-type: none"> ・エチレンが空気中を拡散していることを確かめるためにどのような実験を行えばよいかを考え、説明することができる。b
7	<p>2. 発芽の調節 3. 成長の調節</p>	教科書 図説 問題集 授業プリント	9 <p>植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと、その意義を理解する。</p> <p>植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみを理解している。a ・植物が重力方向を感知できなくなった場合、自然界での成長においてどのような不都合があるかを考え、説明することができる。b ・植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解している。a ・光発芽種子の発芽条件と、樹木の葉群の上下での各波長の光の割合とを関連づけて、光発芽種子がもつ利点を見いだすことができる。b
8	<p>4. 器官の分化と花芽形成の調節</p>	教科書 図説 問題集 授業プリント	3 <p>植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解している。a ・花芽形成に関する実験結果をもとに、葉で感知された日長の情報がどのように伝達されるかを考え、説明することができる。b ・器官の分化と花芽形成の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。c
9	<p>5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精</p> <p>第7章生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質</p>	教科書 図説 問題集 授業プリント	12 <p>植物が、環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。</p> <p>植物が、病気や食害、生育に不適当な環境で、どのように自身を守っているのかを理解する。</p> <p>被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。</p> <p>個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は、その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物が水の出入りを調節するしくみを理解している。a ・植物の防御応答について理解している。a ・被子植物の配偶子形成と受精のしくみを理解している。a ・裸子植物と比較して、被子植物が行う重複受精にはどのような利点があるのかを考え、説明することができる。b ・個体群の成長には個体群密度が関係していることをしている。a ・個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解している。a ・与えられた条件をもとに、個体群の個体数を推定することができる。b ・生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物

					がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測し、説明することができる。b
10	2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。	・群れや縄張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解している。a ・最適な群れの大きさを決める要因を理解し、群れのおかれた環境に応じて時間の配分率のグラフがどのように変化するかを説明することができる。b ・生物群集には、捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係があることを理解している。a ・生態系内で多種の共存を可能にしているしくみを理解している。a
11	4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について、それぞれの特徴を理解する。生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。	・生産者の物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解している。a ・生態系では食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解している。a ・生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができる。b ・生態系や生物多様性の保全の重要性を理解している。a ・人間活動が生態系に与える影響の例として、窒素排出量の増加や生息地の分断化などがあることを理解している。a ・植林活動と海の豊かさの関係について、学習したことをもとに、資料などにまとめて自分の言葉で説明することができる。b ・生態系と人間生活に関心をもち、主体的に学習に取り組める。c
12	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 共通テストに向けて問題演習をし、理解を深める	問題演習を通して、知識や機能が定着している。a 問題演習で発見した苦手などについて、どのようにすれば克服できるかを考えられる。b
1	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 共通テストに向けて問題演習をし、理解を深める	主体的に問題演習に取り組む態度がみられる。c

2	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 個別試験に向けて問題演習をし、理解を深める	
---	--------	----------------------------	---	------------------------------	--

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	発展化学	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	化学基礎 (数研出版)				
補助教材等	サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) チェック&演習 化学基礎 (数研出版) セミナー 化学基礎 (第一学習社)				

1 学習の到達目標

- 1 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、発展的な内容を理解する。
- 2 目的意識を持って観察実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。
- 3 化学に興味を持ち自ら進んで理解を深めようとする態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 講義の場合は、その日の授業でやると思われる教科書の範囲を読んでくること。
- 授業のあった日は必ず家で復習をすること。特に演習の時は、解けなかった問題をやり直すことが大切である。
- 受験に向けての学習は、「教えてもらう」というような受け身の姿勢では十分な学力が身に付かない。授業の進度に合わせる必要はないので、積極的に自ら進んで学習し、わからない箇所はすぐに質問すること。
- 週に2時間の授業だけではとても受験に対応できる学力は身に付かないので、できれば毎日、少なくとも2日に1日は化学基礎を学習する学習習慣を身に付ける。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業において、グループワークへの積極性や課題への取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	物質の構成	全教材	6	純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	(a)代表的な成分元素について検出法を理解し、実験を実施することができる。物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる (b)純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。 (c)身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ。
5	物質の構成 粒子	全教材	8	原子とその構造 イオン 周期表	(a)単原子イオンの電子配置を示すことができる (b)原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 (c)各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。
6	粒子の結合	全教材	8	イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	(a)化学結合の成り立ちとその特性を説明できる (b)化合物を構成する元素の種類から化学結合の種類を判断できる (c)身の回りの物質がどの化学結合で成り立っているか興味を持つ
7 8	物質質量と化学反応式	全教材	8	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量	(a)原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。同温・同圧の気体の場合、1mol の体積が共通であることを理解する (b) mol を用いた計算をすることができる。2 種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 (c)物質質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
9	酸と塩基の反応	全教材	8	酸・塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩 中和滴定	(a)酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解している。 (b)酸・塩基の性質を H^+ と OH^- で考える方法と、 H^+ の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。塩の水溶液の酸性・中性・塩基

					性を判断し、説明することができる。 滴定曲線における pH 変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 (c)中和反応が H^+ と OH^- の反応であることに気づく。
10	酸化還元反応	全教材	8	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	(a)電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。 (b)酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。 (c)身近にある電池の構造や反応のしくみに興味を示す。
11 月 以降	総合問題演習	チェック & 演習 化学基礎 (数研出版)	24	全範囲	(a) 問題演習で発見した不足している知識・技能を自身でまとめる (b)問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考える (c)問題演習を通じて発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	発展生物	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	高等学校 生物基礎 (数研出版)				
補助教材等	リードα 生物基礎 (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>1. 生物学的な事物・現象について実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培う。</p> <p>2. 生物学的な原理・法則などについて、科学的・統計的な手法を取り入れ、生物学的に考察し、処理する能力を育てる。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○共通テストに向けての学習も兼ねているので計画的に知識の整理と充実に心がけるようにする。</p> <p>○補助教材の問題集にしっかり取り組むことで定着が図られます。</p> <p>○自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物を捉えることができるし、生物に関する知識や理解が幅広くなります。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業において、課題や攻略表の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	生物の多様性と共通性	教科書 問題集 授業プリント	6	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。 顕微鏡の使い方を習得する。	生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解している。a 原核細胞と真核細胞の共通点と相

					違いを見いだすことができる。b
5	エネルギーと代謝 呼吸と光合成	教科書 問題集 授業プリント	8	生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。 呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内に必要な化学反応が進行することを理解する。	ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。a 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。b 酵素の触媒作用と基質特異性について理解し説明できる。b 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。a
6	遺伝情報と DNA 情報の複製と分配	教科書 問題集 授業プリント	8	DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。 DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。	DNA の構造および塩基の相補性を理解する。a DNA の構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などの DNA の構造の特徴を見いだすことができる。b DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。a 細胞当たりの DNA 量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。b
7	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	6	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。a コドンが塩基 3 個の配列で 20 個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。b
8	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	2	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。a さまざまな生物とその遺伝子数を調べ、その生物の特徴と遺伝子数の関係についての自分の考えをまとめ、説明することができる。c
9	体内での情報伝達と調節	教科書 問題集 授業プリント	8	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。a 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。b
	体内環境の維持のしくみ	教科書 問題集	8	ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されているこ	自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしく

10	み 免疫のはたらき	授業プリント		とを理解する。 からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	みを理解できる。a I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて、糖尿病の検査内容や治療方法について、自ら調べたり、考えたりすることができる。c 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。a 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。b
11	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	教科書 問題集 授業プリント	6	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解できる。a 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。b 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解できる。a 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。b
12	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	教科書 問題集 授業プリント	6	生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。	生態系がどのように構成されているのかを理解できる。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を調べ、考察し、説明できる。bc
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	6	全範囲 共通テストにむけて問題演習をし、理解を深める	問題演習を通して知識・技能が定着している。a 問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考えられる。b 主体的に問題演習に取り組む態度が見られる。c
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	6	範囲 問題演習を通して理解を深める	問題演習を通じて発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる a 問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考えられる。b 主体的に問題演習に取り組む態度が見られる。c

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	発展地学	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	「高等学校 地学基礎」(啓林館)				
補助教材等	「二訂版 ニューステージ 地学図表」(浜島書店)				

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

発展地学では2年生で学んだ地学基礎の分野を深く掘り下げていきます。地学は対象とするものが地球全体や宇宙にまで及ぶため、実験や観察を通して覚えられることは多くありません。したがって論理的な思考によって、図やグラフを理解することや、様々な計算を行うことが求められます。探究活動を中心に理論的に思考する方法を学んで下さい。ただし、論理的な思考をするためには基礎知識が重要です。2年生で学んだ内容を復習することが求められます。授業で思い出すのではなく、あらかじめ昨年度学んだ内容を復習した上で授業に臨むようにして下さい。受験では正確な知識と分析能力が問われます。結論だけでなくその課程を大切にする学習を心がけて下さい。(「なぜ?」と思考してみることが大事です。)

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での課題設定および課題解決につながる地学の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	地学現象を論理的に考え、自分の中でモデル化できる。 他者の考えを認め合いながら、自分の考えを深めようとしている	自分の考えを整理し、積極的に発信しようとしている。 他者の考えを聞き、自分の考えも踏まえてまとめようとしている。
主な評価方法	・定期考査(知識の習得を問う問題)	・定期考査(論理的な思考力を問う問題) ・レポートの記述内容 ・グループで考える活動などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・グループで考える活動などの場面での観察

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	地球の概観 地球の内部構造	全教材	6	地球の概観について学び、その内部構造について理解する。	地球の形と大きさ、地球内部の層構造について理解することができる。 (a) 地球の形と大きさについて、観察や測定の結果などから考えることができる。(b)

				地球内部の層構造とその状態について考えることができる。(b) 地球の特徴に興味をもち、地球の形と大きさ、内部構造について調べようとする。(c)
5	プレートテクトニクスと地球の活動 地震	全教材	8	プレートと地球の活動について学び、地質構造、変成岩の形成、地震について理解する。 3種類のプレート境界と運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について理解することができる。(a) 大地形や地質構造、変成岩の形成、地震のメカニズムについて、プレート運動と関連づけて考えることができる。(b) プレートの運動に興味をもち、プレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について調べようとする。(c) 地震の発生のしくみについて振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。(c)
6	火山活動と火成岩の形成	全教材	8	火山活動、火成岩の形成について理解する。 プレート境界やプレート内部における火山分布や火山活動の特徴を理解することができる。(a) 組織と造岩鉱物の組成に基づいて、火成岩の分類を理解することができる。(a) 火山活動のしくみについて、プレート運動と関連づけて考えることができる。(b) プレートの運動に興味をもち、プレート運動に関連する火山活動のしくみや火成岩の形成のしくみについて調べようとする。(c)
7 8	大気圏 水と気象 地球のエネルギー収支	全教材	8	大気の層構造および水と気象の関係について学ぶ。 地球全体のエネルギー収支について理解する。 大気圏の層構造、雲の発生のしくみについて理解することができる。(a) 地球全体のエネルギー収支がつり合っていることを理解することができる。(a) 気圧や気温の鉛直方向の変化から、大気の層構造について考えることができる。(b) 雲の発生のしくみについて、大気中の水蒸気のふるまいと関連づけて考えることができる。(b) 地球全体のエネルギー収支について考えることができる。(b) 大気圏の層構造、雲の発生のしくみについて振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。(c)

9	<p>大気の大循環 海水の循環 日本の天気</p>	全教材	8	<p>大気の大循環や海水の循環について学ぶ。 日本で見られる冬から春, 夏から秋への季節の気象について学ぶ。</p>	<p>大気の大循環によって低緯度から高緯度へ熱が輸送されていることを理解することができる。(a) 海洋の層構造、海水の循環について理解することができる。(a) 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみについて理解することができる。(a) 緯度によるエネルギー収支の違いとそれに伴う熱の輸送について考えることができる。(b) 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみについて考えることができる。(b) 地球が宇宙との間でエネルギーを吸収・放出していることに興味をもち、緯度によるエネルギー収支の違いや、大気の大循環による地球規模の熱の輸送について調べようとする。(c) 日本の天気について興味をもち、日本の天気に影響を与える偏西風や季節風の特徴について調べようとする。(c)</p>
10	<p>宇宙の誕生 太陽系の誕生</p>	全教材	8	<p>宇宙のはじまりの様子や太陽系の誕生, および太陽系の各天体の特徴について学ぶ。</p>	<p>宇宙の誕生、恒星としての太陽の誕生について理解することができる。(a) 太陽系の各天体の特徴を比較し、地球が生命を生み出す環境となった理由について考えることができる。(b) 太陽系と地球の誕生の経緯に興味をもち、太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴, および地球が生命を生み出す環境となった理由について調べようとする。(c)</p>
11	<p>先カンブリア時代 顕生代</p>	全教材	6	<p>古生物の変遷と地球環境の変化について学ぶ。</p>	<p>大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について理解することができる。(a) 大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について考えることができる。(b) 古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて調べようとする。(c)</p>
12	<p>地層からわかること 地層の形成</p>	全教材	6	<p>堆積岩とその形成や地層について学び, 地球の歴史の組み立てについて理解する。</p>	<p>流水のはたらきによって地層が形成されるしくみを理解することができる。(a)</p>

	地層の読み方				地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法について考えることができる。(b) 地球の歴史を知る方法に興味をもち、地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法について調べようとする。(c)
1	地球環境と人類 地震災害・火山災害 気象災害 災害と社会	全教材	6	地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。	人類が自然から受けている多様な恩恵や様々な災害について理解することができる。(a) 地域の特徴に合わせた防災対策について考えることができる。(b) 自然災害の観測方法と対策について振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。(c)
2	人間生活と地球環境の変化	全教材	6	人間生活と地球環境の変化の関わりについて理解する。	人間生活と地球環境の変化との関わりについて理解することができる。(a) 人間生活と地球環境の変化との関係について考えることができる。(b) 自然との共生に興味をもち、人間生活と地球環境の変化との関係について調べることができる。(c)

令和 8 年度 芸術(音楽)科 シラバス

科目	探求音楽	単位数	3	履修学年・クラス(講座)	3学年
使用教科書	Joy of Music(教育芸術社)				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

基礎的な知識・技術の習得を発展的な探究活動につなげ、生涯にわたって音楽を愛好する態度を育てるとともに、音楽の活動を通して探究心や問題解決能力の育成を目指す。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 問題解決型の探究的な学習をメインに進めていきますので、毎回の授業には主体的に参加することを心掛けてください。
- 課題にはチームとして協働的に取り組んでいきます。仲間の話をよく聞いたり、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションを大切にしてください。
- わかることやできることは、仲間に教えてあげましょう。わからないことやできないことは、仲間に教えてもらいましょう。
- 自ら楽しむこと、楽しい雰囲気を作るように心掛けることが、楽しい授業になるポイントです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	課題の目標を達成するために必要な知識や技術を身に付けている。	知識や技術をどのように活用して問題を解決するか、創意工夫を考えることができる。	自らアイデアを提案したり、仲間と協働して問題解決に向かう探究的な活動ができている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子 ・振り返りの内容 ・発表などの内容 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や提案の内容 ・振り返りの内容 ・発表などの内容 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子 ・発言や提案の内容 ・振り返りの内容 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	器楽合奏	ミュージックベル合奏	21	仲間と協力して、ミュージックベル合奏を完成させるために必要なことを自分たちで考え、練習を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を正確に読む知識(知) ・ミュージックベルで合奏を成立させるために必要な要素や要件を判断し、問題を解決する力(思・判・表) ・主体的にアイデアを提案し、仲間と協働して問題解決に向けて行動できる力(主)

6 ～ 7	歌唱表現	合唱	21	<p>少人数での合唱を行い、ひとりひとりが単独でも歌えるようにする。 歌詞や曲調から表現方法を自分たちで考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当するパートを、正しい音程やリズムで歌唱することができる。(知) ・他の人や他のパートとの関わりを理解し、目標達成のための創意工夫を考えることができる。(思・判・表) ・充実した合唱のために、主体的な姿勢で活動に参加している。(主)
8 ～ 9	器楽表現	ギター、ピアノ等の合奏	15	<p>自分の使いたい楽器を用いてアンサンブルをおこなう。 楽曲の選定や構成の工夫を自分たちで考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を正確に読む知識(知) ・ピアノやギター等で合奏を成立させるために必要な要素や要件を判断し、問題を解決する力(思・判・表) ・主体的にアイデアを提案し、仲間と協働して問題解決に向けて行動できる力(主)
10. ～ 12.	創作	音楽制作ソフトを使った作曲・編曲	30	<p>「カトカトーン」を使って、自由なテーマで曲を作ったり、好きな曲をアレンジしてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージした旋律や和声などを形にできる知識や技術(知) ・旋律や伴奏などの創作表現を創意工夫している(思・判・表) ・主体的、協働的に創作学習活動に取り組もうとしている(主)
1 ～ 2	器楽表現	カップス	18	<p>「Cupla Caps」紙コップを使ったリズム合奏。動画を参考にしながら、楽譜と楽譜を読み解くための英文をもとに、高度なリズム合奏を完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、協働的に問題解決に臨んでいる(主) ・物事を多角的、多面的にとらえ、問題解決のために創意工夫している(思・判・表) ・英語の指示を的確に理解して正確に楽譜を読み、正しいリズムや動作で合奏することができる(知)

○記載の単元や教材は各時間の主となる活動であり、この他に毎時の歌唱や楽典等の活動が加わる。

科目	発展音楽	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	3学年
使用教科書	Joy of Music(教育芸術社)				
補助教材等	コールユーブンゲン				

1 学習の到達目標

基礎的な知識や技術を高めることで、社会や生活の中における音楽の役割を考える力や、生涯にわたり音楽を愛好する心情を養う。また、探求的な学習の中で好奇心や問題解決能力を高め、音楽を通じた学びを他の様々な場面で活用できる力を養うことを目標とする。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○メインとなるのは課題探究学習です。個人やグループで取り組む課題を設定し、最後には発表会での発表を行います。課題の内容は、演奏発表をはじめ、作曲などの創作、研究発表などです。

○課題探究学習のほか、コールユーブンゲンを使用してのソルフェージュ、合唱などを予定しています。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	読譜や演奏に必要な基礎的な知識や技術を身に付けている。	課題が適切に設定され、観客にも楽しんでもらえるような工夫が考えられている。	主体的に計画を立てて練習し、目標をもって練習や準備に励んでいる。仲間との協働的な活動において、進んで役割を果たすことができる。
主な評価方法	・コールユーブンゲンの歌唱テスト ・合唱の観察 ・課題探究の発表や授業内の取り組み	・課題探究発表や授業内の取り組み ・学習の記録	・授業内での活動観察 ・学習の記録 ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 ~ 6	合唱	混声3部合唱曲	22	・パート練習 ・全体練習	・自分が担当するパートを、正しい音程やリズムで歌唱することができる。(知) ・他の人や他のパートとの関わりを理解し、目標達成のための創意工夫を考えることができる。(思・判・表) ・充実した合唱のために、主体的な姿勢で活動に参加している。(主)

7 ～ 11	課題探究		30	課題探究学習① ・テーマ設定 ・学習計画 ・探究学習 ・中間発表	・適切な課題設定と活動計画が立てられている。(思・判・表、主) ・演奏や発表に必要な知識や技術を身に付けている。(知) ・中間発表に向けて主体的な取り組みができてきている。(主)
12 ～ 2	課題探究		18	課題探究学習② ・探究学習 ・まとめの発表 ・振り返りとまとめ	・適切な課題設定と活動計画が立てられている。(思・判・表、主) ・演奏や発表に必要な知識や技術を身に付けている。(知) ・まとめの発表に向けて主体的な取り組みができてきている。(主)

○記載の単元や教材は各時間の主となる活動であり、この他に毎時の歌唱等の活動が加わる。

令和 8 年度 芸術 科 シラバス

科 目	発展美術	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	美術 3 光村図書				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>課題を通して自分自身とは何か、自分が興味、関心を持てることは何かを探求します。自分にしかない考え方や視点や表現を探することで、自分自身と深く向き合うことにつながります。</p> <p>例えば鑑賞の分野において、どんなに歴史的に有名な作品であっても、その作品が全ての人に感銘を与えるとは限りません。同じ作品を観ても、人それぞれに感じ方が違うのです。それは作品そのものに絶対的な美しさや価値があるのではなく、作品を観る人が、みんな違った体験や価値観を持っているからなのです。美術作品に触れることで自分自身のルーツを探し、考えや価値観に気づくこと、美術という答えのない問に対して、自分なりの答えを導き出すことがこの授業の目標になります。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○与えられた授業時間のみで考えるのではなく、常日頃から造形的な見方や考え方で日常を見つめ直してください。「造形的な見方・考え方」というのは、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値を作り出すことです。</p> <p>○日常の視覚的な情報に注意深くなるために、日頃のアイデア、ドローイングをスケッチブックやロッキー帳に描きとめることが望ましいです。</p> <p>○授業時間の中で集中して制作、作業に取り組む過程と、ある程度の距離を取り、客観的に自己の作品を観る過程をもつことが重要です。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識や表現における創造的な技能を身に付けて適切に使っている。	表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方を深めている。	制作に主体的に取り組み、美術を愛好する心情、豊かな感性や情操を深めている。学んだことを社会や生活に生かそうとしている。
主な評価方法	・提出作品 ・計画表の記述による知識の確認	・エスキース、計画表、提出作品による確認 ・プレゼンテーションでの発表の確認	・制作に取り組む姿勢 ・振り返りシートの記述による確認 ・生徒による自己評価や相互評価による確認

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4 5	オリエンテーション	教科書	14	<ul style="list-style-type: none"> ・美術全般ガイダンス ・美術に関わる専門的な多種多様な職種を知り、将来の可能性を考える。 ・教科書を中心とした鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術に関わる様々な分野に対する理解を深めている。(a)
6 7 8	各自の主題に応じた単元	各自必要な教材・資料・材料を準備する	16	<ul style="list-style-type: none"> ・自由課題制作 ・美術に関わる全ての分野から自己のテーマを選ぶ。 ・各自が選んだテーマの年間計画書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に主題を生成している。(b) ・独創性、表現方法における個性の追求をしている。(b) ・造形の特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。(a)
9 10			16	<ul style="list-style-type: none"> ・自由課題制作に関する研究 ・関連の資料を収集し各自のテーマに沿った作品制作、または論文、レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだ分野に対して更なる知識、技術の向上を図ろうとしている。(c)
11 12			12	<ul style="list-style-type: none"> ・前期プレゼンテーション・鑑賞会 ・自由課題制作 各自のテーマに沿った作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中段階の作品を客観的に考察している。(b) ・作品の相互鑑賞をし、意見を交換することでプレゼンテーション能力を高めている。(c) ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。(a) ・表現形式の特性などについて考え創造的な表現の構想を練っている。(b)
1	鑑賞		6	<ul style="list-style-type: none"> 最終プレゼンテーション・鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の相互鑑賞をし、意見を交換することでプレゼンテーション能力を高めている。(c) ・表現を通して自己を見つめ直し、自分を知ることから社会へどのような働きかけができるかを考えるきっかけをつくらうとしている。(c)
2	鑑賞		6	<ul style="list-style-type: none"> 自由課題(卒業制作)校内展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内、校外の様々な人の目に触れて、反応や感想を聞くことで更なる創作活動の意欲につなげようとしている。(c)

令和 8 年度 芸術 科 シラバス

科 目	発展書道	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書					
補助教材等	中国法書選 (二玄社)、教科担当作成の手本等				

1 学習の到達目標

<p>多くの書に触れ、人物や時代背景、書体や筆法などを知り、それを表現しようと試みる。 また、多くの書表現に触れ、表現方法の幅広さを知り、感性を豊かにする。(知識・技能) 鑑賞したり臨書したりする中で、様々な表現方法や視点があることに気づき、多角的な視野を持って考え表現する力を養う。(知識・技能、思考力・判断力・表現力) 作品に対する意図を明確に持ち、それを表現するための方法を考え、判断し、表現しようとする姿勢を持つ。(思考力・判断力・表現力) 授業だけでなく日常生活の中でも積極的に芸術に触れ、多角的な視野を持って物事を捉えようとする姿勢や、自己の内面と向き合って主体的に自己表現をする力を身につける。(態度)</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○様々な書作品に触れ、表現を学びます。得意なものがあればそうでないものもあるかもしれません。その要因がどこにあるのか考えることも大切です。多くの作品と向き合い、感じ、考えることを積極的に行ってください。 ○書道の学習を通して、多角的な視野や様々な視点を身につけ、それが書道の表現に生かされることが一つの目標です。その姿勢や能力は、他教科や人生の中の様々な場面で必ず生きてきます。芸術に触れることのできる貴重な時間です。人生を豊かにする能力を伸ばし、感性を豊かにし、社会で生きていく力が育つよう、主体的に学びましょう。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	書道全般や各古典について理解する。 基本的な筆遣いや各古典の筆法を知りそれを用いて書く。 分析的な鑑賞の仕方を身に付ける。	知識と技能を基に、制作するものに適した表現方法を模索してそれを表現しようと試みる。 共同制作で役割を考え状況を見て協力して行なう。	積極的に作品に触れ、鑑賞したり臨書したりする。 計画的に制作を進める。 共同作業で自ら主体的に行動する。
主な評価方法	・ 作品 ・ 記述による知識の確認 ・ 制作中の様子	・ 作品 ・ 制作中の様子 ・ プリントへの記述内容	・ 作品 ・ 取り組みの姿勢 ・ 自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	「千字文」	中国法書選	28	「千字文」臨書	・「千字文」の概要や特徴、人物や時代について理解(a)
5	臨書			・個人製作	

6 7				・共同作品 作品の相互鑑賞	・草書の崩し方を確認しながら正しく丁寧に臨書する(ab) ・書きぶりの統一された共同作品を仕上げる(b) ・集中して全臨に臨む(c)
8	信州書道 展出品作 品制作	プリント	2	「千字文」半紙六文字作 品臨書	・「千字文」の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)
9 10 11 12	カッティン グ作品制 作	中国法書選	25	古典の鑑賞 カッティング(色画用紙) 作品の相互鑑賞	・様々な古典を鑑賞し特徴を捉える(ac) ・好きな古典を見つけ、分析的に鑑賞する(b) ・正しく丁寧にカッティングする(ac)
12	お日限地 蔵尊書道 展出品作 品制作	プリント	3	半紙六文字作品臨書	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)
1	石碑の拓 本を採る	石碑レプリ カ 校歌石碑	4	拓本の採り方を知る 石碑レプリカを用いて拓 本を採る 校歌の石碑の拓本を採 る	・拓本の採り方を理解(a) ・道具を正しく丁寧に扱う(ac) ・主体的に行動する(c) ・協力して一つの拓本を仕上げる(bc)
1 2	古典鑑賞 と臨書	中国法書選	8	古典鑑賞と臨書	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	外国語・探求英語Ⅱ	単位数	2単位	履修学年・クラス（講座）	3学年
使用教科書	Viewpoint Standard & Advanced				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>英文の構造を十分に理解し、内容を正確に読み取る。 聞かれている内容がどこに書いてあるのか、短時間でわかるような能力を付ける</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度。	文章内容の理解度や表現の能力。	提出物等の提出状況等。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Lesson 11 ～Lesson 15	Viewpoint Standard	17	11 it is～ that…「強調構文」 12 so 形容詞・副詞＋that～ 13 分詞構文を見抜こう 14 名詞構文を見抜こう 15 倒置を見抜こう	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 1 ～Lesson 5	Viewpoint Advanced	18	1 前置詞の後は「名詞のかまり」がくる 2 名詞を後ろから説明するかまりを見抜こう (1) 3 and/or/but は語や節をつなぐ 4 that+SV の that は接続詞か関係代 名詞か 5 「同格の関係」	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Lesson 6 ～Lesson 10	Viewpoint Advanced	18	6 副詞や主節の挿入 7 [～, which…] 8 名詞を後ろから説明するかまりを見抜こう (2) 9 後ろに続く語句を予測 10 名詞のかまりをさす it を見抜こう	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Lesson 11 ～Lesson 15	Viewpoint Advanced	17	11 強調構文 12 省略表現・比較表現 13 分詞構文 14 意味上の主語 15 名詞構文	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	外国語・発展英語	単位数	3 単位	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	Viewpoint Standard & Advanced				
補助教材等	Keys to Listening 3				

1 学習の到達目標

<p>○英文の構造を十分に理解し、内容を正確に読み取る。 聞かれている内容がどこに書いてあるのか、短時間でわかるような能力を付ける</p> <p>○音の理解と意味の理解の両方を深め、大学入学共通テストや各種資格・検定試験に向けたリスニング力を養う。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文、リスニング等の習得度。	文章内容の理解度や表現の能力。	提出物等の提出状況等。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Lesson 11 ～Lesson 15 Lesson 1 ～Lesson 5	Viewpoint Standard Keys to Listening 3	17	11 it is～ that…「強調構文」 12 so 形容詞・副詞+that～ 13 分詞構文を見抜こう 14 名詞構文を見抜こう 15 倒置を見抜こう	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 1 ～Lesson 5 Lesson 6 ～Lesson 10	Viewpoint Advanced Keys to Listening 3	18	1 前置詞の後は「名詞のかたまり」がくる 2 名詞を後ろから説明するかたまりを見抜こう (1) 3 and/or/but は語や節をつなぐ 4 that+SV の that は接続詞か関係代 名詞か 5 「同格の関係」	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Lesson 6 ～Lesson 10 Lesson 11 ～Lesson 15	Viewpoint Advanced Keys to Listening 3	18	6 副詞や主節の挿入 7 [～, which…] 8 名詞を後ろから説明するかたまりを見抜こう (2) 9 後ろに続く語句を予測 10 名詞のかたまりをさす it を見抜こう	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Lesson 11 ～Lesson 15 Lesson 16 ～Lesson 20	Viewpoint Advanced Keys to Listening 3	17	11 強調構文 12 省略表現・比較表現 13 分詞構文 14 意味上の主語 15 名詞構文	A:目標を十分達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和 8 年度 英語科 シラバス

科 目	実用英語	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	Express Yourself Logically				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>日常生活に関わる様々な英文やビデオ教材等を通して、日常生活で用いられる語彙や表現を学び、会話やプレゼンテーション、メール等を書く練習をして、英語の運用能力を高める。</p>

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○ALT の先生や教材から、様々な表現を身に付けましょう。</p> <p>○英語表現で大切なことはミスを恐れない心です。勇気を持って自分を表現しましょう。</p> <p>○</p> <p>○</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	英語でよく使われる表現を身に付けてるかどうか	場面に適した表現ができているかどうか。	自分から進んで調べたり、発表したり、質問したりする姿勢。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Lesson1～ Lesson5	Express Yourself Logically	26	Breakfast Mother's Day Halloween To Stay Healthy Online Reading に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
7 8 9	Lesson6～ Lesson10	Express Yourself Logically	27	Fast Food Restaurant Money English as a Global Language Stressful IT Society Advertisement に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
10 11 12	Lesson11～ Lesson15	Express Yourself Logically	26	Shakespeare Credit Card Three Ways of Learning A New Type of Computer Electricity に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
1 2	Lesson16～ Lesson20	Express Yourself Logically	26	Purpose of Education Rainforests What Is Sound Magnet The Earth に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する

令和 8 年度 家庭科 シラバス

科目	生活文化	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年選択
使用教科書	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)				
補助教材等					

1 学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育や食生活など生活全般の充実向上を担うために必要な資質や能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 家庭基礎の内容を発展させ、食生活や保育などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。【知識及び技能】
- (2) 家庭と社会とのかかわりの中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する能力を養う。【思考力・判断力・表現力】
- (3) ライフスタイルの多様化が進む現代社会において、様々な人と協働し、自らの生活を総合的にデザインしようとする実践的な態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 家庭基礎の内容を発展させ、実習・演習を主として学びます。積極的に授業に取り組んでください。
- 日頃から保育や食生活に関わるニュースに関心を持ち、今何が問題視されているのかをとらえ、自分なりの考察ができるようにしていきましょう。
- 調べ学習やレポートによる提案などを重ねて、実習に結び付けていきますので、タブレットを大いに活用していきましょう。
- ライフスタイルの多様化が進む中で、「命、暮らし、人」に関わる学びを深めましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	食生活や保育などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	生活全般に関する課題を発見し、考察や実践を繰り返しながら課題解決のために考えを深めようとしている。	様々な人と協働し、自らの生活を総合的にデザインしようとする実践的に取り組んでいる。
主な評価方法	・定期テスト2回(前期中間・期末考査)	・定期テスト2回(前期中間・期末) ・レポート記述内容 ・実習や発表などの場面での観察	・調理実習 ・被服製作実習 ・レポート発表 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価基準
4	カラーコーディネート	色彩の基礎	9	・カラーコーディネートの基本を理解し、色の組み合わせを考える。	・色彩の基礎を理解したうえで、テーマに沿ったカラーコーディネートを工夫しようとしている。(b)
5	食品選択と取り扱い	食品選択のコツ	12	・地域の食材について学び、献立作成と調理実習を行う。	・地域の特徴ある食材を調べ、自分なりの課題をもってまとめ発表し伝えようとしている。(b)
6		食品の衛生と安全	12	・食の安全と環境について、自分の食環境から課題を設定し調べる。	・食の安全にかかわる問題を理解し自分の考えをまとめ説明しようとしている。(a)
7 8	子供の文化	子供文化の意義 子どもと遊び	12	・子供の文化や遊びについて理解し、健やかな発達を促す活動に関連する技術を理解し実践する。	・子供の遊びと表現活動について、発達の特性との関連性を理解しようとしている。(a) ・実践するために技術を学び実践しようとしている。(c)
9	子供の福祉	児童福祉の理念と法規・制度	12	・子供の福祉の理念や制度について理解し、これからの社会に求められる保育について考察する。	・子供の保育の現状を理解し、課題を考察しようとしている。(b)
10	作品製作	身近な手芸作品	12	・かぎ針やミシン等の技術を使って、身近なところで役に立つ作品を製作する。	・意欲的に製作に取り組もうとしている(c) ・お互いに教え合うことを大切に技術を学ぼうとしている。(b)
11	食文化	食と文化の関わり	9	・季節や行事をテーマに献立作成を行う。また、それに合わせたテーブルコーディネートを考える。	・クリスマスをテーマとして、献立作成から調理、飾り付け、まとめを一連の流れの中で創意工夫しようとしている。(c)
12 1 2		(各種調理法)	27	・引き続き、献立作成及び実習を行う。	・お正月～春の節句をテーマとして、献立作成から調理、飾り付け、まとめを一連の流れの中で創意工夫しようとしている。(c)

令和 8 年度 国語科 シラバス

科目	古典探究	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年・文系
使用教科書	高等学校 古典探究 (数研出版)				
補助教材等	古典探求 (数研出版) 古典探求 準拠ワーク (数研出版) 新明説漢文 (尚文出版) 読んで見て覚える 古文単語 315 (桐原書店) 改訂版これでわかる明快古典文法 (いっずな書店) マーク試験のための基本練習古典 10 (尚文出版)				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○皆さんが古典を学ぶことで、現代を生きる自分自身の在り方や生き方を見つめ、よりよい生に繋がることを願っています。</p> <p>○古文は音読を大切にしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムに慣れましょう。</p> <p>○文章を読解するためには、重要古文単語を確実に習得し、古典文法の知識を定着させることが大切です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていきましょう。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識の学習も並行して進めていきましょう。</p> <p>○漢文こそ音読です。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句法をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。</p> <p>○漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることでその繋がりが見え、自分自身の見識が広がっていく実感が得られるでしょう。</p> <p>○日本人が言語を用いて何を形成してきたかを是非考えてみましょう。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に

		の思いや考えを広げたり深めたりしている。	使おうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストの取り組み ・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「古典の作品を多面的に評価する」	「二月のつごもりごろに」 「清少納言がこと」 「鳥の空音」	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・『枕草子』と『古本説話集』が同じエピソードを通じて伝えたかったことはそれぞれ何か考える。 ・行成は清少納言のどのようなところを称賛したのか、整理して説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(a) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価している。(b)
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「知音」 「梁上君子」 「三横」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、考える。 ・「一県無復盜竊」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。 ・陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な訓読のきまりりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
6	「作者の心情をたどりながら古典作品を読み、内容の解釈を深める」	「父の離京」 「土御門邸の秋」 「薫る香に」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・「ただひとへに悲しう心細きことをのみ思ふ」について、このときの作者の気持ちを説明する。 ・「女郎花」と「白露は」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか考える。 ・「うち出ででも」「今日のまの」の贈答歌について、それぞれの歌に込められた気持ちを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a) ・学習課題に沿って本文を解釈しようと粘り強く取り組んでいる。(c)
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉え、内容を解釈する」	「古体詩」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの古体詩について、一句の字数、一首の句数、押韻がどうなっているかを確かめ、対句表現を抜き出す。 ・それぞれの古体詩の内容を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(a) ・関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(b)
	「漢文特有の表現に注	「売鬼」	12	<ul style="list-style-type: none"> ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な訓読のきまりりについて理解を深めている。(a)

9	意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「人面桃花」		・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。	・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
10	「古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する」	「車争ひ」 「須磨」 「紫の上の苦悩」	12	・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・光源氏と従者とが詠み交わす四首の歌をそれぞれ現代語訳し、四首に共通する心情を説明する。 ・紫の上の苦悩とはどのようなものか説明する。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(b)
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深める」	「伯夷・叔齊」	9	・伯夷・叔齊の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)
12	「自分の解釈を互いに話し合い交流する」	「貫之と躬恒」 「道真と時平」	9	・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。 ・語り手は、時平と道真に対してどのような思いを持ちながら語っているのか話し合う。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・粘り強く本文の内容を読み解き、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。(c)
1	「漢文から得られるものの見方を現代に活かす」	「捕蛇者説」	9	・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか考える。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)
2	「古典作品に描かれた人間像を読み取り、広く人間とは何か考えを深める」	「菅原道真」 「王昭君」	9	・本文で菅原道真はどのような人物として描かれているか説明する。 ・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。 ・『唐物語』「王昭君」を読み比べて、相違点をあげる。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)

令和 8 年度 国語科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年・理系
使用教科書	高等学校 古典探究 (数研出版)				
補助教材等	古典探求 (数研出版) 古典探求 準拠ワーク (数研出版) 必携 新明説漢文 (尚文出版) 読んで見て覚える 古文単語 315 (桐原書店) 改訂版これでわかる明快古典文法 (いわずな書店) マーク試験のための基本練習古典 10 (尚文出版)				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 皆さんが古典を学ぶことで、現代を生きる自分自身の在り方や生き方を見つめ、よりよい生に繋がることを願っています。
- 古文は音読を大切にしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムに慣れましょう。
- 文章を読解するためには、重要古文単語を確実に習得し、古典文法の知識を定着させることが大切です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていきましょう。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識の学習も並行して進めていきましょう。
- 漢文こそ音読です。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句法をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。
- 漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることでその繋がりが見え、自分自身の見識が広がっていく実感が得られるでしょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストの取り組み ・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「古典の作品を多面的に評価する」	「二月のつごもりごろに」 「清少納言がこと」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・『枕草子』と『古本説話集』が同じエピソードを通じて伝えたかったことはそれぞれ何か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(a) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価している。(b)
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「知音」 「梁上君子」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、考える。 ・「一県無復盜窃」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な訓読のきまりりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
	「作者の心情をたどりながら古典作品を読み、内容の解釈を深め	「父の離京」 「土御門邸の秋」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「ただひとへに悲しう心細きことをのみ思ふ」について、このときの作者の気持ちを説明する。 ・「女郎花」と「白露は」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a) ・学習課題に沿って本文を解釈しよ

6	る」			としているのか考える。	うと粘り強く取り組んでいる。(c)
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉え、内容を解釈する」	「古体詩」	8	・それぞれの古体詩について、一句の字数、一首の句数、押韻がどうなっているかを確かめ、対句表現を抜き出す。 ・それぞれの古体詩の内容を解釈する。	・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(a) ・関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(b)
9	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「売鬼」	8	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。	・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
10	「古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する」	「車争ひ」 「須磨」	8	・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・光源氏と従者とが詠み交わす四首の歌をそれぞれ現代語訳し、四首に共通する心情を説明する。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(b)
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深める」	「伯夷・叔斉」	6	・伯夷・叔斉の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)
12	「自分の解釈を互いに話し合い交流する」	「貫之と躬恒」	6	・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・粘り強く本文の内容を読み解き、学習課題に沿って話し合いに参加しよ

					うとしている。(c)
1	「漢文から得られるものの見方を現代に活かす」	「捕蛇者説」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)
2	「古典作品に描かれた人間像を読み取り、広く人間とは何か考えを深める」	「菅原道真」 「王昭君」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・本文で菅原道真はどのような人物として描かれているか説明する。 ・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)

令和 8 年度 公民 科 シラバス

科目	倫理	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	「倫理」(東京書籍)				
補助教材等	「要点マスター倫理 整理と演習ノート」(東京書籍)				

1 学習の到達目標

<p>① <<「知識及び技能」に関わる目標>> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにします。</p> <p>② <<「思考力、判断力、表現力等」に関わる目標>> 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養います。</p> <p>③ <<「学びに向かう力、人間性等」に関わる目標>> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めます。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>①日常生活で気になった人間関係や言動、自分自身に関する事柄について、そのまま放っておかず、その原因や理由、背景、影響などについて考え、同様のことを考えた人物や関連する思想、理論等を調べる姿勢を持つこと。</p> <p>②日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたり論点を見いだしたりすることに努めること。</p> <p>③客観的な複数の資料に基づいて、諸課題を多面的・多角的に考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付けること。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>科目ごとの評価の観点の趣旨</p>	<p>○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。</p> <p>○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまと</p>	<p>○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。</p> <p>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</p> <p>○理解したこと、考察したこ</p>	<p>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。</p> <p>○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。</p> <p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのよう</p>

	めている。	となどを適切な方法で表現している。	な取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

4 学習及び評価計画

2

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	・第1章 人間の心のあり方	教科書 資料集 演習ノート 問題集	33	<ul style="list-style-type: none"> ・人間とは何か ・人間の心の働き 	<p>(a)学習内容を理解している。</p> <p>(b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
7 8 9	・第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I	教科書 資料集 演習ノート 問題集	24	<ul style="list-style-type: none"> 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術 	<p>(a)学習内容を理解している。</p> <p>(b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
10 11 12	・第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 II	教科書 資料集 演習ノート 問題集	30	<ul style="list-style-type: none"> 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 	<p>(a)学習内容を理解している。</p> <p>(b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
1 2	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	教科書 資料集 演習ノート 問題集	18	<ul style="list-style-type: none"> 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚 	<p>(a)学習内容を理解している。</p> <p>(b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>

令和 8 年度 地歴公民科 シラバス

科目	政治経済	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年 該当講座
使用教科書	政治・経済 (数研出版)				
補助教材等	政治経済資料集 (第一学習社) 4 ステージ演習ノート政治・経済 (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>1 現代社会の諸課題について、政治・経済を中心に社会・文化などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に、現代社会に対する興味・関心を高める。</p> <p>2 現代社会について多角的な視点から考察するとともに、現代社会と自己との関わりに思いをいたし、いかに生きるかを主体的に考える。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>〇二葉生としてふさわしい態度で授業に臨み、授業の復習を行う。ニュースに関心を持てると良い。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (知識問題) 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 (思考問題) レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度や出席数など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
前期中間 まで	<p>第1編</p> <p>第1章</p> <p>第1節 民主政治の基本原 理</p> <p>第2節 日本国憲法と基本的 人権</p> <p>第3節 日本の政治機構</p> <p>第4節 政治参加と民主政治 の課題</p>	教科書 など	約20	教科書の内容	学習評価の通り

夏期補習	第2章 第1節 国際政治の動向 第2節 国際社会の課題と日本の役割	教科書 など	約10	教科書の内容	学習評価の通り
前期期末 まで	第2編 第1章 第1節 経済活動の意義と経済体制 第2節 現代経済のしくみ	教科書 など	約20	教科書の内容	学習評価の通り
放課後補習・土曜 講座	第3節 日本経済と福祉の向上	教科書 など	約20	教科書の内容	学習評価の通り
後期中間 まで	第2章 第1節 国際経済の動向 第2節 国際経済の課題と国際協力	教科書 など	約20	教科書の内容	学習評価の通り

令和 8 年度 数学科 シラバス

科目	数学B・数学C	単位数	1+1	履修学年・クラス(講座)	3年理系・文系
使用教科書	新編数学B(数研出版) 新編数学C(数研出版)				
補助教材等	3TRIAL 完成ノート・短期完成 統計的な推測ノート (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>(数学B)統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>(数学C)平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

<p>○まずは日々の予習→授業→復習の習慣を確立すること。 とくに授業は集中して取り組み、授業後は早めに3TRIALで問題を解き定着させること。</p> <p>○解法の丸暗記に頼るのではなく、「なぜそうなるのか」をしっかりと確認しながら問題演習をすること。</p> <p>○わからないことはそのままにしないこと。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	統計的な推測・平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする	確率分布や標本分布の性質(数学B)・図形や図形の構造(数学C)に着目し、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・小テスト ・課題提出状況等 授業への取り組みなども含め、総合的に判断する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	単元	時数	学習内容	評価規準
4 5	数学B 第2章 第1節	14	第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布	(a) 確率変数や確率分布について用語の意味を理解し、確率分布や期待値・分散・和を求めることができる。 確率変数の独立について理解している。 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 連続型確率変数について理解し正規分布を利用することができる。 (b) 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できる。 また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。 (c) 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることよき気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。
6 7 8	数学B 第2章 第2節	12	5 正規分布 第2節 統計的な推測 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定	(a) 母集団と標本平均について理解し、標本平均の分布を正規分布で近似し、確率変数を求めることができる。また、推定や仮説検定に関する用語を適切に用いて、身近な事象に対する主張を推定したり検定したりできる。 (b) 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用できる。 (c) 信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとしている。また、仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味を持ち、現実の問題の解決に役立てようとしている。
8 9	数学C 第3章	16	数学C第3章 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	(a) 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算について図形を用いて考察できる。 (b) 複素数の図形的意味を理解し、図形の考察に複素数の計算を活用できる。 (c) 複素数平面の定義から、複素数の計算や曲形式が複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。
10 11	数学C 第4章 第1節	14	数学C第4章 2次曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	(a) 放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、接線や法線などを求めたりすることができる。 (b) 放物線、楕円、双曲線の定義や性質について理解したことを、問題の解決に活用できる。 (c) 放物線、楕円、双曲線について、それぞれの特徴をとらえながら、問題の解決に活用しようとしている。

12 1	数学C 第4章 第2節	12	第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式	<p>(a) 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について理解している。</p> <p>(b) 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について考察できる。また、極座標の仕組みについて理解し、図形を極方程式で表したり、極方程式が表す図形を求めたりできる。</p> <p>(c) コンピュータを用いるなどして、様々な曲線についてその方程式や概形について、主体的に考察しようとしている。</p>
2	総合問題	6	総合問題演習	<p>(a) これまでに学習した内容を理解している。</p> <p>(b) 問題の解法とこれまでの学習内容との関連を考察できる。</p> <p>(c) 問題解決に向けて、学習内容との関連を考察したり、図やグラフを用いたりすることで、工夫しながら粘り強く学習に取り組んでいる。</p>

令和8年度 数学科 シラバス

科目	数学Ⅲ	単位数	5	履修学年・クラス (講座)	3年理系Ⅰ講座
使用教科書	新編数学Ⅲ (数研出版)				
補助教材等	3TRIAL 数学Ⅲ 完成ノート (数研出版)				

1 学習の到達目標

極限、微分法および積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- まずは日々の予習→授業→復習の習慣を確立すること。
とくに授業は集中して取り組み、授業後は早めに3TRIALで問題を解き定着させること。
- 解法の丸暗記に頼るのではなく、「なぜそうなるのか」をしっかりと確認しながら問題演習をすること。
- わからないことはそのままにしないこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	極限・微分法および積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・小テスト ・課題提出状況 等 授業への取り組みなども含め、総合的に判断する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	時数	学習内容	評価規準
4 5	第 1 章 関数	35	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	(a)分数関数、無理関数、逆関数について関数の定義や性質を理解し、グラフをかくことができる。 ・グラフを利用することで不等式を解くことができる。 ・合成関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。 (b)分数関数・無理関数の表記についてグラフの平行移動とともに、理解し考察することができる。 ・逆関数の定義から、定義域や値域や性質を考察できる。 (c)グラフと直線について共有点の座標の意味を考え、求め方を考察しようとする。 ・分数不等式、無理不等式の意味を考え、グラフを用いて考察しようとする。
	第 2 章 極限		第 1 節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数	(a)数列の極限値の定義を理解している。 ・収束する数列の極限値の性質を理解し、それを利用して数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列の収束条件を理解しそれを利用できる。 ・漸化式で表された数列の一般項を求め、極限を求められる。 ・無限級数の表記について理解し、収束・発散を調べられる。 ・無限等比級数の収束・発散を公比の値で調べられる。 (b)極限の考察において「はさみうちの原理」を用いたり、公比の値で場合分けをしたりすることで工夫して考察できる。 ・等比数列の和を利用することで、極限を調べることができる。 (c)不定形の数列の式について不定形を解消できるよう、工夫して式変形ができる。
			第 2 節 関数の極限 4・5 関数の極限 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	(a)不定形を解消するなど関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。 ・関数の極限が正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 ・指数関数・対数関数・三角関数の極限が求められる。 ・定義に基づいて関数の連続性・不連続性を判定できる。 (b)不定形を工夫して式変形し、極限を求められる。 ・「はさみうちの原理」「中間値の定理」を利用する意義を理解し、問題解決ができる。 (c)不定形を解消するために工夫して式変形をしようとしている。

6	第3章 微分法	20	第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	(a)微分可能性と連続性の関係を理解し、連続であるが微分可能でないことを示せる。 ・導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分できる。 ・導関数の性質、積・商の導関数、合成関数・逆関数の導関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用できる。
			第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 4 曲線の方程式と導関数	(a)自然対数 e の定義, 三角・指数・対数関数の導関数を理解し, 種々の導関数の計算ができる。 ・陰関数、媒介変数表示された関数の導関数の考え方、高次導関数について理解し、微分をすることができる。 (b)対数微分法を利用すること、陰関数表示の微分の有用性を理解し、活用することができる。 (c)自然対数の底 e を考える必要性に興味を持ち、考察しようとする。 ・高次導関数の計算だけではなく、第 n 次導関数の式を予想し証明等に活用しようとしている。
7 8 9	第4章 微分法の 応用	40	第1節 導関数の応用 1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ	(a) 接線・法線の方程式を求めることができる ・平均値の定理とその図形的意味を理解し、不等式の証明などに利用できる。 ・導関数を利用して、極値や増減などを調べることができる。 ・第2次導関数を利用し、凹凸や変曲点などを求めたり、グラフを書いたりすることができる。 (b)様々な条件が与えられたときに、条件に合った方法を考えて接線や法線を求めることができる。 ・第2次導関数の符号と関数の増減の関係について考察することができる。 (c)関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて工夫して考察しようとしている。
			第2節 いろいろな応用 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	(a)不等式の条件を、関数の値域の条件と置き換えなどで工夫することにより、方程式・不等式の問題に利用することができる。 (b)方程式の実数解の個数を、関数のグラフと直線の共有点の個数に読み替えて考察することができる。 ・導関数の意味から、変位を表す関数と速度・加速度を表す関数の関係性を考察している。 ・微分係数とその図形的意味から、関数の近似式を考察することができる。 (c)方程式・不等式を関数的視点から捉え解決しようとしている。 ・直線上を運動する点の速度・加速度を基に、平面上を運動する点の速度・加速度を考察しようとする。

10 11	第5章 積分法と その応用	35	<p>第1節 不定積分</p> <p>1 不定積分とその基本性質</p> <p>2 置換積分と部分積分法</p> <p>3 色々な関数の不定積分</p>	<p>(a)不定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。</p> <p>・置換積分法と部分積分法を利用し不定積分を計算できる。</p> <p>(b)合成関数の微分と置換積分法、積の微分と部分積分法の関係を理解し、活用することができる。</p> <p>(c)簡単に不定積分の計算ができないときに、工夫して不定積分をしようとしている。</p>
			<p>第2節 定積分</p> <p>4 定積分とその基本性質</p> <p>5 置換積分と部分積分法</p> <p>5 定積分のいろいろな問題</p>	<p>(a)定積分の定義や性質を理解し、計算できる。</p> <p>・定積分の置換積分法で、積分区間の変換に注意し計算できる。</p> <p>(b)曲線で囲まれた部分の面積を長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察できる。</p> <p>・定積分を利用した不等式の証明方法について考察することができる。</p> <p>(c)定積分の計算方法および、定積分を利用した種々の問題に興味を持ち、工夫して問題解決をしようとしている。</p>
			<p>第3節 積分法の応用</p> <p>7 面積</p> <p>8 体積</p> <p>9 道のり</p> <p>10 曲線の長さ</p> <p>発展 微分方程式</p>	<p>(a)グラフや図を用いて、グラフの上下関係や積分範囲を考察し、面積を定積分で表し求めることができる。</p> <p>・立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。</p> <p>・数直線上を運動する点の座標、道のりを定積分で求めることができる。</p> <p>(b)x 軸や y 軸を軸とする回転体の断面は円となることを理解し、回転体の体積について考察できる。</p> <p>・座標平面上の点が媒介変数表示されているとき、点が動く道りと曲線の長さの関係性を理解し、考察できる。</p> <p>(c)体積・道のり等を定積分で表されることを理解し、図やグラフを用いながら工夫して計算しようとしている。</p>
12 ～ 2	総合 問題	45	総合問題演習	<p>(a) これまでに学習した内容を理解している。</p> <p>(b)問題の解法とこれまでの学習内容との関連を考察できる。</p> <p>(c)問題解決に向けて、学習内容との関連を考察したり、図やグラフを用いたりすることで、工夫しながら粘り強く学習に取り組んでいる。</p>

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	化学	単位数	5	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	化学 (数研出版)				
補助教材等	フォローアップドリル化学 物質の状態 (数研出版) フォローアップドリル化学 熱化学・反応速度・化学平衡 (数研出版) フォローアップドリル化学 無機物質 (数研出版) フォローアップドリル化学 有機化合物 (数研出版) フォローアップドリル化学 高分子化合物 (数研出版) サイエンスビューー 化学総合資料 (実教出版) チェック&演習 化学 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)				

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 授業内容等で分からないことがあれば、すぐに質問すること。
- 復習は必ず行い、学んだ内容を確認すること。
- 問題集を繰り返し解くことによって、知識や技能を身に着けること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	様々な化学の現象と物質への理解を深め、科学的に探究するために必要な理解と実験に関する基本的な技能を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける家庭において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、自ら学習を調製しようとしているか。
主な評価方法	・単元テストと定期テストにおいて評価する	・定期テストにおいて評価する。	・授業へ取り組む態度と課題への取り組みを評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4	<ul style="list-style-type: none"> ・溶液 ・化学反応とエネルギー 	教科書 問題集 授業プリント	15	<ul style="list-style-type: none"> ・溶解とそのしくみ ・溶解度 ・希薄溶液の性質 ・コロイド溶液 ・化学反応と熱 ・ヘスの法則 ・化学反応と光 	<ul style="list-style-type: none"> ・水和という現象を理解する。(a) ・分子を極性分子と無極性分子に分けることができ、水への溶解の可否を判断できる。(b) ・物質の溶解とそのしくみについて興味をもつ。(c) ・冷却曲線と過冷却という現象について理解する。(a) ・飽和溶液において成立する溶解平衡について理解する。(a) ・沸点上昇や凝固点降下を利用することで分子量を求められることを理解し、その値を求めることができる。(b) ・ヘンリーの法則を用いて、気体の溶解量を求めることができる。(b)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・電池と電気分解 ・化学反応の速さとしくみ 	教科書 問題集 授業プリント	20	<ul style="list-style-type: none"> ・電池 ・電気分解 ・化学反応の速さ ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・電池について、その構造や両極で起こる反応、現象に興味をもつ。(c) ・水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。(a) ・ある電解液を電気分解した際に陽極および陰極で反応する物質や発生する物質を判断できる。(a) ・実験結果から反応速度を求める方法を理解する。(a) ・反応速度式を用いて実験結果の処理などを行い、反応速度や速度定数を求めることができる。(b)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・化学平衡 ・非金属元素 	教科書 問題集 授業プリント	20	<ul style="list-style-type: none"> ・可逆反応と化学平衡 ・平衡状態の変化 ・電解質水溶液の化学平衡 ・元素の分類と周期表 ・水素・貴ガス元素 ・ハロゲン元素 ・酸素・硫黄 ・窒素・リン ・炭素・ケイ素 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学平衡の法則を理解し、与えられた反応の平衡定数を濃度を用いて記述することができる。(a) ・平衡定数を用い、化学平衡における量的関係を求めることができる。(b) ・弱酸、弱塩基の遊離と塩の加水分解について理解する。(a) ・溶解度積を用いて量的計算を行うことができる。(b) ・電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。(c) ・周期表に基づきながら、酸化物の示す性質や単体の酸化作用、還元作用を理解する。(a) ・ハロゲンの酸化力に基づいて、その反応性の強弱を判断できる。(b) ・ハロゲンの単体およびハロゲンを

				含む化合物について興味をもつ。 (c) ・酸素および硫黄の単体や化合物についてその性質を理解する。(a) ・一酸化窒素と二酸化窒素の性質について理解し、それぞれの製法の化学反応式を書くことができる。	
7	・金属元素	教科書 問題集 授業プリント	15	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ金属元素 ・アルカリ土類金属元素 ・アルミニウム・スズ・鉛 ・遷移元素の特徴 ・鉄 ・銅 ・銀・金 ・亜鉛 ・クロム・マンガン ・その他の遷移金属 ・金属イオンの分離・確認 	<ul style="list-style-type: none"> (b)・鉄の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・アルカリ金属の単体や化合物に興味をもつ。(c) ・鉛(Ⅱ)イオンの反応について理解する。(a) ・鉄の反応について体系立てた知識を表現できる。(b) ・銅(Ⅱ)イオンの反応性について理解する。(a) ・銀の単体や化合物に興味をもつ。(c) ・過マンガン酸イオンの反応について体系立てた知識を表現できる。(b) ・金属イオンの系統分析の考え方をを用いて、複数の金属イオンが存在する水溶液から目的の金属を分離、確認することができる。(b)
8	・有機化合物	教科書 問題集 授業プリント	5	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物の分析 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素 ・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸 ・エステルと油脂 ・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分離 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の分類について、炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。(a) ・与えられた分子式からアルカンの構造異性体やその名称を書き出すことができる。(b) ・アルコールやエーテルの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。(c) ・アルデヒドやケトンの反応性に基づき、構造式や名称を書くことができる。(b) ・カルボン酸の化学式や名称、分類について理解する。(a) ・油脂の分子式や分子量を求めることができる。(b) ・有機化合物の分離の原理について理解する。(a)
9	高分子化合物	教科書 問題集 授業プリント	20	<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の構造と性質 ・糖類 ・アミノ酸とタンパク質 ・核酸 ・合成繊維 	<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物を分類することができる。(b) ・化学式や名称、構造、性質に基づいて糖類を分類することができる。(a)

				<ul style="list-style-type: none"> ・合成樹脂 ・ゴム 	<ul style="list-style-type: none"> ・アミノ酸やタンパク質の構造や性質をふまえ、量的計算を行うことができる。(b) ・合成繊維の特徴やその重合方法、構造、利用例について興味をもつ。(c) ・イソプレンと天然ゴムの構造式を書くことができる。(b)
10	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	20	全範囲	<p>(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう</p> <p>(b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。</p> <p>(c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。</p>
11	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	<p>(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう</p> <p>(b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。</p> <p>(c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。</p>
12	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	<p>(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう</p> <p>(b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。</p> <p>(c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。</p>
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	<p>(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう</p> <p>(b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。</p> <p>(c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。</p>
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	<p>(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう</p> <p>(b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。</p> <p>(c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。</p>

科目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
- ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 原則として、全ての種目を履修・習得すること。長期間（概ね20日以上）の欠席及び見学は、医師による診断書の提出が必要になる場合があるので相談して下さい。
-
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や 行い方、体力の高め方、 課題解決の方法、練習 の仕方、運動を行う際 の健康・安全の確保の 仕方についての具体的 な方法を理解してい る。	与えられた課題を解決す るために論理的に考え、 解決するために正しく判 断できている。また、仲 間と相談し、より良い解 決に導こうとしている。	・自ら進んで運動の楽しさや喜 びを味わおうとする。健康や安 全を確保して学習に主体的に取 り組もうとしている。
主な評価方法	・実技テスト （記録計測、チーム戦 績、技能の完成度） ・観察及び完成度 ・レポート等	・観察及び完成度	・観察及び完成度 ・レポート等

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	体づくり運動 陸上競技 体育理論	ストレッチ ウォーキング 持久走 スポーツテスト	8	活動的な運動・静的な運動、ウォーキング・ジョッキング等により体力を高める。 持久走により、有酸素能力の向上に努める。 スポーツテストの実施により、自己の体力要素を把握する。	1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。
5 6	球技	選択体育 ソフトボール バレーボール バドミントン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
6 7	水泳	クロール 平泳ぎ	8	クロール・平泳ぎの基本的な技術を体得し、より長く泳げるようにする。 記録測定。	
8 9	球技	選択体育 バスケットボール サッカー バドミントン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
10	陸上競技		5	持久走により、有酸素能力の向上に努める。記録測定。	
10 11 12 1	球技	選択体育 バスケットボール フットサル バドミントン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	Blue Marble English Communication Ⅲ				
補助教材等	大学入学共通テスト リスニング分野別 10min.				

1 学習の到達目標

- ・英文の内容を十分に理解し、各レッスンの伝えようとしている教訓や、意味を味わう。
- ・共通テストで求められる読解力、聞く力を身に付ける。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。

-
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度	文章内容の理解度や表現の能力	提出物等の提出状況
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Lesson 1 ～Lesson 3	Blue Marble English Communication Ⅲ	35	<ul style="list-style-type: none"> ・A Chance for Everyone to Shine ・Protecting Our Brains from Smartphones ・Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4 ～Lesson 5	Blue Marble English Communication Ⅲ	35	<ul style="list-style-type: none"> ・Paving the Way to a More Inclusive Society ・Discovering Your Answers Through Art Thinking 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Lesson 6 ～Lesson 8	Blue Marble English Communication Ⅲ	35	<ul style="list-style-type: none"> ・Super Sniffers Saving the World ・Perceptions of Time in Different Cultures ・The Thawing Permafrost : Earth's Warning Call 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Lesson9 ～Lesson10	Blue Marble English Communication Ⅲ	35	<ul style="list-style-type: none"> ・How We Are Influenced by Advertising ・What Makes a Virtual Community? 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和 8 年度 英語科 シラバス

科 目	論理表現Ⅲ	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	be English Logic and Expression Clear Ⅲ				
補助教材等	Bright Stage				

1 学習の到達目標

- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 文法事項の復習をしながら、自分の意見を英語で伝える方法を学ぶ。
- 場面ごとに、自分の意見を伝えるためには、どのような表現があるのかを学習する
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度	文章内容の理解度や表現の能力	提出物等の提出状況
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Lesson 1～3	be English Logic and Expression Clear III	18	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態 ・動詞の形 ・助動詞 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4～6	be English Logic and Expression Clear III	17	<ul style="list-style-type: none"> ・比較級 ・比較級(差の程度) ・副詞と形容詞 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Lesson 7～10	be English Logic and Expression Clear III	18	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞 ・分詞 ・不定詞(形容詞用法) ・不定詞(名詞用法) 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Lesson 11～12	be English Logic and Expression Clear III	17	<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞 ・不定詞(副詞用法) 	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和8年度 情報科 シラバス

科目	情報Ⅱ	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	3 学年文系選択
使用教科書	日本文教出版 情報Ⅱ				
補助教材等	日本文教出版 サブノート,Python(モナカエデュケーション),AIドリル(共通テスト模試) ライフイズテック				

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画してその発展に寄与するための資質・能力を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教科書、サブノート、および1人一台端末を活用して座学と実習を行う
- 協働作業を通じてコミュニケーション能力の向上をはかる
- オンライン授業の形態も利用しながら多様な授業を体験・実践する
- 日々の授業課題をぬかりなくやる
- 共通テスト対策を計画的に実践する

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価・改善し新たな価値を創造しようとしている。
主な評価方法	・ワークシート ・反転学習(Pスタディ) ・考査 など ・	・ワークシート ・作業ファイル ・話し合い ・発表 など	・振り返りシート ・行動観察 など ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点:(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4月	序章	教科書 サブノート	6	1 なぜ「情報Ⅱ」を学ぶのか (1) 新たな価値を創造するために (2) 情報技術によって変わるはたらき方を考えるために (3) 新たな社会をつくり出すために (4) 情報Ⅱと他教科との関係 2 「情報Ⅱ」で学ぶこと (1) 情報社会の進展と情報技術 (2) コミュニケーションとコンテンツ	(a)DX, Society 5.0 など近年の情報化の進展を表す考え方を理解している。(b)情報技術が新たな価値や社会を創造することにどのように貢献できるのか考えられる。(c)これからの社会で情報技術がどのように役立つのかを考えることを通して、情報社会の発展に寄与しようとしている。 ・(a)教科書の構成を踏まえ、情報Ⅰと学習内容の違いを理解している。

	第1節 情報技術による社会や生活の変化			<p>(3) 情報とデータサイエンス</p> <p>(4) 情報システムとプログラミング</p> <p>(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究</p> <p>1 情報技術による社会や生活の変化</p> <p>(1) コンピュータや携帯電話の発達による変化</p> <p>(2) インターネットによる変化</p>	<p>・(b)情報Ⅰと情報Ⅱの学習内容を比較し、情報Ⅱの学習を通して、情報技術および情報社会への理解がどう深まるのか考えられる。</p> <p>・(c)情報Ⅱの学習が、情報技術および情報社会の理解にどのように役立ちそうか見通しを立てようとしている。</p> <p>(a)コンピュータ、携帯電話、インターネット等の情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解している。</p> <p>(b)情報技術の発展の歴史を踏まえ、わたしたちの生活や社会に与えてきた影響について考えられる。</p> <p>(c)情報技術の歴史に関心を持ち、その発展の経緯を調べようとしている。</p>
5月	第2節 情報社会と情報セキュリティ	教科書 サブノート	8	<p>2 情報技術の進展と今後</p> <p>(1) コミュニケーションの変化</p> <p>(2) コンテンツの変化</p> <p>(3) データ活用による変化</p> <p>(4) 人工知能による変化</p> <p>(5) これからの社会でわたしたちに求められる能力</p> <p>1 情報セキュリティの重要性</p> <p>(1) サイバー犯罪と情報セキュリティ</p> <p>(2) 情報セキュリティの3要素</p> <p>(3) 情報セキュリティポリシー</p> <p>2 情報社会における権利と法律</p> <p>(1) 情報社会がかかえる問題</p> <p>(2) 知的財産権と著作権</p> <p>(3) 個人情報保護法</p> <p>(4) 情報社会におけるさまざまな法律</p>	<p>(a)ソーシャルメディアの発展によるコミュニケーションの多様化について理解している。データや AI の発展による人の知的活動への影響について理解している。(b)コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツのあり方について考えられる。データ活用や AI を利用する意義について考えられる。(c)社会における問題解決のために情報技術がどのように役立っているのか調べようとしている。これからの社会でわたしたちに求められる力について考えようとしている。</p> <p>(a)サイバー犯罪とはどのようなものか理解している。情報セキュリティの重要性と必要性について理解している。(b)情報セキュリティを確保するために必要な技術がどのような役割をはたしているか考えられる。個人が気をつけるべき情報セキュリティ対策について考えられる。(c)情報社会の問題を発見・考察することを通して、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</p> <p>(a)情報に関する法規や制度について理解している。情報社会の進展にともない、さまざまな法律が整備されてきたことを理解している。</p> <p>(b)情報に関する法規や制度の意義、課題について考えられる。(c)情報に関する法規や制度を理解して、情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>
6月	第2章 第1節 コンテンツの制作	教科書 サブノート	8	<p>1 コンテンツ制作のプロセス</p> <p>(1) 複数のメディアを組み合わせたコンテンツの制作</p>	<p>(a)文字、音声、静止画像、動画のメディアにおける特性を理解している。効果的なコンテンツを制作する過程での留意点を把握してい</p>

			<p>(2) ユーザ視点のコンテンツ制作 (3) コンテンツ制作のプロセス</p> <p>2 仮説生成と要件定義 (1) コンテンツの対象を発見するためのユーザ調査 (2) 解決策立案のための仮説生成 (3) 要件定義</p> <p>3 メディアプランニング (1) 情報共有に適したソーシャルメディア (2) ソーシャルメディアと人間の行動形態 (3) メディアプランニング</p>	<p>る。ユーザが見やすく、使いやすいコンテンツについて理解している。(b)コンテンツにおいて使われているメディアが、それぞれどのような効果をもたらしているかを考え判断できる。効果的なメディアの使い方について、具体的に考え表現できる。(c)コンテンツにおけるメディアの効果について、考えようとしている。複数のコンテンツについて差異を観察し、意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p> <p>(a)要件定義書をまとめるためのユーザ調査の手法を理解している。問題解決の仮説を作成する手法を理解している。(b)ユーザ調査に必要な内容を考え作成し、実施することができる。問題解決の仮説に必要なペルソナを考え、構造化シナリオを作成することができる。ユーザ要件定義を考え、わかりやすく表現できる。(c)ユーザ調査に必要な調査内容や、ユーザ要件定義の具体化のために、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p> <p>(a)ソーシャルメディアの特性について理解している。メディアプランニングについて理解している。(b)人間の行動形態に照らし合わせて効果的なメディアの選別を考えることができる。文化祭 Web サイトを広く伝えるためのメディアプランニングを立案できる。(c)文化祭 Web サイトを広く伝えるためのメディアプランニングについて、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p>
7月	第2節 Web サイトによる情報発信	教科書 サブノート Python	<p>4 コンテンツの制作と評価・改善 (1) 作業の進行と内容の管理 (2) プロトタイプ作成 (3) コンテンツの制作と評価・改善</p> <p>6 1 Web サイトのしくみと情報発信 (1) HTMLとCSS (2) Web サーバとブラウザ, Web アプリケーション (3) Web サイトによる配信</p>	<p>(a)コンテンツを制作する工程時間・内容を管理する方法を理解している。(b)コンテンツを制作する工程時間・内容を役割に合わせて無理なく計画できる。完成したコンテンツの評価法を考え、実施することができる。(c)コンテンツ制作の計画に合わせて、積極的に行動しようとしている。コンテンツの評価について、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p> <p>(a)Web サイトによる情報発信のしくみと Web アプリケーションの役割について理解している。SSL/TLS による安全な情報通信のしくみについて理解している。(b)導入する Web アプリケーションを選択できる。安全に通信するために必要な SSL サーバ証明書の発行元を選択できる。(c)Web アプリケーションや、SSL サーバ証明書について、積極的に意見交</p>

				<p>2 Web サイトの定量的な分析</p> <p>(1) アクセス解析の活用</p> <p>(2) アクセス解析ツールの選び方</p> <p>(3) アクセス解析からの分析とコンテンツの改善</p>	<p>換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p> <p>(a)アクセスログを解析し問題・課題点を把握する重要性を理解している。アクセス解析を行うためのツールについて理解している。Webサイトに必要な SEO 対策の具体的な方法を理解している。(b)アクセスログから、問題・課題点を考え、改善策を考えることができる。Webサイトに必要な SEO 対策を考え、実行することができる。(c)アクセス解析ツールの操作を通して、問題・課題点について積極的に意見交換し、具体的な改善策も提案している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。</p>
8月	第3章 第1節 データ活用の重要性	教科書 サブノート Python	2	<p>1 情報システムとデータ</p> <p>(1) 情報システム上で流通するデータ</p> <p>(2) データの種類</p> <p>(3) ビッグデータ</p> <p>(4) オープンデータ</p>	<p>(a)社会で活用されている情報システムのしくみを理解している。情報システム上で流通するデータと尺度の関係を理解している。(b)ビッグデータとオープンデータの事例についてわかりやすく表現できる。(c)情報システム上のデータと尺度の関係を理解しようとしている。ビッグデータとオープンデータの具体例について調べ、共有しようとしている。</p>
9月		教科書 サブノート	8	<p>2 データサイエンスの活用①</p> <p>(1) データサイエンスの役割と重要性</p> <p>(2) 交通需要予測</p> <p>(3) レコメンデーション</p> <p>3 データサイエンスの活用②</p> <p>(1) 売り上げ予測</p> <p>(2) 製品検査(抜き取り検査)</p> <p>(3) 証拠に基づく政策立案</p> <p>1 データの収集</p> <p>(1) データ収集の手法</p> <p>(2) 集計と誤差</p> <p>(3) バイアス</p> <p>(4) 交絡</p> <p>2 データの整理</p> <p>(1) データクレンジング</p> <p>(2) 尺度について</p> <p>(3) 欠損値の処理</p> <p>(4) 外れ値の処理</p>	<p>(a)データサイエンスとはどのような学問分野であるか理解している。データサイエンスが活用されたサービスについて理解している。(b)データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べ、わかりやすく発表、表現できる。(c)データサイエンスとその活用例について理解しようとしている。データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べようとしている。</p> <p>(a)標本調査における適切なサンプルサイズについて理解している。バイアスと交絡が調査結果にもたらす影響について理解している。尺度と統計量の関係について理解している。前処理の必要性和処理の方法について理解している。(b)標本調査における適切なサンプルサイズを表現することができる。バイアスや交絡の具体例と調査結果への影響を判断できる。表計算ソフトウェアなどを利用して、適切な前処理と統計処理を行うことができる。(c)標本調査の調査結果と母集団との間に生じる誤差について理解しようとしている。バイアスや交絡の調査結果への影響について判断しようとしている。尺度と統計量の関係について理解</p>

	<p>第3節 データの蓄積と活用</p>		<p>1 データベース (1) データベースとデータモデル (2) リレーショナルデータベース (3) データウェアハウス 2 リレーショナルデータベースの設計 (1) スキーマ (2) ER 図 (3) データベースの正規化 3 リレーショナルデータベースの操作 (1) リレーショナルデータベースの操作 (2) データベースを操作するための言語 (SQL)</p>	<p>しようとしている。前処理と統計処理を適切に行おうとしている。</p> <p>(a)リレーショナルデータベースの構成について理解している。データウェアハウスの特徴と利用方法について理解している。リレーショナルデータベースの設計方法を理解している。データベースを正規化する目的と手順を理解している。リレーショナルデータベースで必要な情報を取り出すための操作を理解している。SQL を使ったデータベースの操作方法を理解している。(b)リレーショナルデータベースのテーブルを作成するとき、主キーを意識したテーブルの構成を考えることができる。データベーステーブルの正規化と分割を適切に行うことができる。リレーショナルデータベースから目的に応じて操作を判断し、必要なビューを作成できる。データモデル、データベース、データウェアハウスを理解しようとしている。リレーショナルデータベースのテーブルを積極的に作成しようとしている。リレーショナルデータベースの設計方法を理解しようとしている。データベーステーブルを正規化しようとしている。リレーショナルデータベースの操作方法を理解しようとしている。SQL を用いてデータベースを操作しようとしている。</p>
<p>10月</p>	<p>第4節 データの分析</p>	<p>教科書 サブノート Python</p>	<p>8</p> <p>1 データ分析と可視化 (1) データ分析と可視化 (2) グラフによる可視化 (3) 図による可視化 2 数理モデル (1) 数理モデル (2) 説明変数と目的変数 (3) 線形モデル (4) 確率モデル (5) よいモデルと悪いモデル 3 機械学習 (1) 機械学習とは (2) 教師あり学習, 教師なし学習, 強化学習 (3) 統計学的手法とニューラルネットワーク 4 変数選択と次元削減 (1) よりよい分析を行うために (2) 変数選択 (特徴量選択) (3) 次元削減 5 回帰分析 (1) 回帰分析とは (2) 単回帰分析 (3) 重回帰分析</p>	<p>"(a)データ分析における可視化の必要性とその方法について理解している。尺度とデータ分析に利用されるグラフの関係について理解している。数理モデルの考え方と構築方法について理解している。モデルの種類およびモデル構築の留意点について理解している。機械学習の考え方について理解している。データの与え方や学習のしかたによって異なる機械学習の分類と活用について理解している。変数選択の重要性とその選択手法について理解している。数理モデルにおける次元削減の重要性を理解している。回帰分析とは何かについて理解している。単回帰分析と重回帰分析の方法について理解している。(b)取得したデータを可視化するために最も適切なグラフを選択し表現できる。または、効果的な図に可視化できる。データから数理モデルを構築することができる。機械学習の分類ごとに、データの与え方や学習のしかたについて、活用例を交えて説明できる。用意したプログラムあるいはモデルから、適切に次元削減したデータを取得できる。与えられたデータを用いて決定係数を求め、回帰モデルの当てはまり具合を判定で</p>

					<p>きる。データ分析における可視化の必要性とその方法について理解しようとしている。データを取得して効果的に可視化しようとしている。数理モデルの考え方と構築方法について理解しようとしている。データから数理モデルを構築しようとしている。機械学習の考え方や手法について理解しようとしている。機械学習の活用例について調べようとしている。次元削減の重要性とその具体的方法を理解しようとしている。主成分分析の手法を通して、次元削減して得られたデータを確認しようとしている。回帰分析とは何かについて理解しようとしている。単回帰分析と重回帰分析を行おうとしている。</p>
11月	<p>第4章 第1節 情報システムのしくみと情報セキュリティ技術</p>	<p>教科書 サブノート Python</p>	<p>6</p> <p>1 情報システムと社会への影響 (1) 情報システムとは (2) さまざまな情報システム (3) 情報システムが社会に与える影響</p> <p>2 情報システムの処理のしくみ (1) 情報システムが処理するデータ (2) 情報システムの処理形態</p> <p>3 情報システムを支える技術 (1) RFID (2) GPSとGIS</p> <p>4 情報セキュリティの確保 (1) 情報システムのトラブルとその影響 (2) 暗号化による情報流出の防止 (3) アクセス制御とアクセス権 (4) 内部のネットワークを守る技術 (5) システムを止めない工夫"</p>	<p>(a) 情報システムがわたしたちの生活に必要な不可欠であることを理解している。情報システムによって得られる利便性ととも、その課題についても理解している。RFID や GIS など、情報システムを支える技術について理解している。情報システムに障害をもたらす脅威について理解している。情報セキュリティを支える技術について理解している。(b) 情報システムが果たしている役割を考え説明できる。個々の情報システムについて問題点を考え、改善策を考えることができる。ネットワークについて、これまでに経験したトラブルや問題点を考察し、改善策を判断できる。たとえば自宅のネットワークを快適にする具体的な案を、図を用いてわかりやすく表現できる。(c) 情報システムのもたらす影響力について、積極的に意見交換している。情報システムのメリットや問題点について、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。情報システムで扱われるデータの内容について発表しようとしている。教科書に記述された技術について、積極的に意見交換している。発表資料作成に積極的に参加している。また、興味・関心をひく発表になるように努力している。</p>	
12月					
1月					
2月					